

教育に係るアセスメントの結果について

－ 令和6(2024)年度 －

教育推進機構

アセスメント・ポリシーに基づく教育の質保証について

本学は、令和4（2022）年度からの第4期中期目標・中期計画期間（6年間）における中期計画に「各研究科の専門性に応じた大学院教育を体系的に実施する」ことを掲げ、これを達成するための評価指標として、大学院教育を確実に展開するため、令和4年度にアセスメント・ポリシーを策定、令和5年度からアセスメント・チェックを実施し、教育課程の評価・改善に取り組むこととした。

このため、令和4（2022年）年度に、教育推進機構教育戦略室会議においてアセスメント・ポリシー及びアセスメント・ポリシーの運用について検討後、教育推進機構会議、役員会及び教育研究評議会の審議を経て策定された。また、各学部・研究科及び教育推進機構単位のアセスメント・ポリシーについても策定することとし、本学が中期計画指標に掲げる研究科全体に係るアセスメント・ポリシー及び各研究科単位のアセスメント・ポリシーを策定するとともに、各学部及び教育推進機構に係るアセスメント・ポリシー及び各部局単位のアセスメント・ポリシーについても策定し、本学のアセスメント体制を整備したものである。

本学のアセスメント・ポリシーは、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー（DP））に定める学位取得の要件に基づき、教育目標の到達度、学生の満足度などの学修成果に関してアセスメント（測定・評価）を実施し、各教育課程の有効性について検証を行うとともに、その結果等を教育改革、教育方法の改善及び学修支援等に活用することをもって、本学における教学マネジメントに基づく「学修者本位の教育の実現」に向けた教育の質保証を推進することを目的としている。

今回実施した教育に係るアセスメントは、令和5（2023）年度の教育活動や令和6（2024）年度に開講する授業科目におけるカリキュラム・チェックの実施結果等について調査を行い、各部局等が行ったアンケートの調査結果等も含め、教育推進機構において全学的観点から検証した結果を、報告書として纏めたものである。

目 次

I	実施体制等	1
II	アセスメントの結果について	
	項目 1 入学状況、進学・留年・退学の状況、卒業や進路の状況	3
	項目 2 教育活動、研究活動及び社会との連携等の状況	9
	項目 3 カリキュラム・チェックの実施結果	11
	項目 4 成績評価を含めた授業の開講状況	24
	項目 5 学生支援の状況	31
	項目 6 自主的学習環境の整備状況	35
	項目 7 アンケート調査	37
III	参考資料	
	・弘前大学アセスメント・ポリシー	47
	・アセスメント・ポリシーの運用に関する要項	51

I 実施体制等

1 実施単位

アセスメントの単位は、学部においては、機関レベル（大学全体）、教育課程レベル（各学部）、科目レベル（各授業）の3区分としている。また、研究科においても、機関レベル（大学全体）、教育課程レベル（各研究科）、科目レベル（各授業）の3区分としている。

2 実施体制

アセスメントは、機関レベルでは教育推進機構が実施、教育課程レベル及び科目レベルでは各学部及び研究科等がそれぞれ実施する体制としている。

3 実施方法

アセスメントは、以下について、アセスメント・ポリシーに規定するアセスメント・チェックリストにより実施する。

- (1) 入学、進学、留年、退学等及び卒業・修了及び進路の状況
- (2) 教育活動、研究活動及び社会との連携等の状況
- (3) カリキュラム・チェック
- (4) 授業の開講、成績評価の状況
- (5) 学生支援の状況
- (6) 学修環境及び研究環境の整備状況
- (7) 入学時（志望動機等）アンケート調査
- (8) 在学時（授業評価、生活状況、進路希望等）アンケート調査
- (9) 卒業時（大学の満足度等）及び終了時（研究指導の満足度）のアンケート調査
- (10) 卒業（修了）後3年経過時（第79回）DPの有効性、就職先企業等に対する本学卒業（修了）生の評価等）アンケート調査
- (11) その他アセスメントに有効な取組等

なお、上記(1)及び(2)については、業務の効率化の観点から、国立大学法人弘前大学組織評価実施規程により実施された組織評価の結果等を利用して行うこととしている。

アセスメントの結果は、教育推進機構会議に報告された後、教育推進機構長が調査結果について全学的見地から検証を行い、評価結果を取りまとめた上で学長に報告される。学長は、改善すべき事項があったと判断する場合、教育推進機構に改善計画を取りまとめさせ、該当する学部・研究科等に改善計画に基づいた措置を講ずることを命じ、また、学部等は講じた措置の結果について、最終的に学長に報告される。

弘前大学における「アセスメント・ポリシー」に基づく教育の質保証について

弘前大学は、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー(DP))に定める学位取得の要件に基づき、**教育目標の到達度、学生の満足度などの学修成果**に関して**アセスメント(測定・評価)を実施し、各教育課程の有効性について検証を行うとともに、その結果等を教育改革、教育方法の改善及び学修支援等に活用**することをもって、**本学における教学マネジメントに基づく「学修者本位の教育の表現」に向けた教育の質保証を推進する。**

I アセスメント・ポリシーの内容

中期計画等に基づき、学部及び大学院のポリシー(以下「大学ポリシー」という。)並びに教育推進機構のポリシーを策定し、**アセスメント・チェックリスト**により実施。

- ・弘前大学アセスメント・ポリシー(学部)
- ・弘前大学アセスメント・ポリシー(大学院)

- ・入学、進学、留年、退学等及び卒業・修了・進路の状況
- ・教育活動、研究活動及び社会との連携等の状況
- ・カリキュラムチェック(CP・DP)で求める3つの柱との整合性等)
- ・授業の閉講、成績評価、学生支援、学修・研究環境の状況
- ・アンケート調査(入学時、在学時、卒業時、卒業後3年次) など

・教育推進機構アセスメント・ポリシー

- ・授業評価アンケート、VELC(Visualizing English Language Competency [英語力診断]) テスト、就職先企業等アンケート など

各学部及び各研究科は、上記の大学ポリシーに基づきアセスメント・ポリシーを策定し、各教育課程及び専門科目等のアセスメントを実施。

III 今後のアセスメント・スケジュール

- 令和4年度: **アセスメント・ポリシーの策定(学部・研究科も含む。)**
質保証調査(基本調査)の実施(本年度限り)
- 令和5年度: **アセスメント・ポリシーに基づくアセスメントの開始**

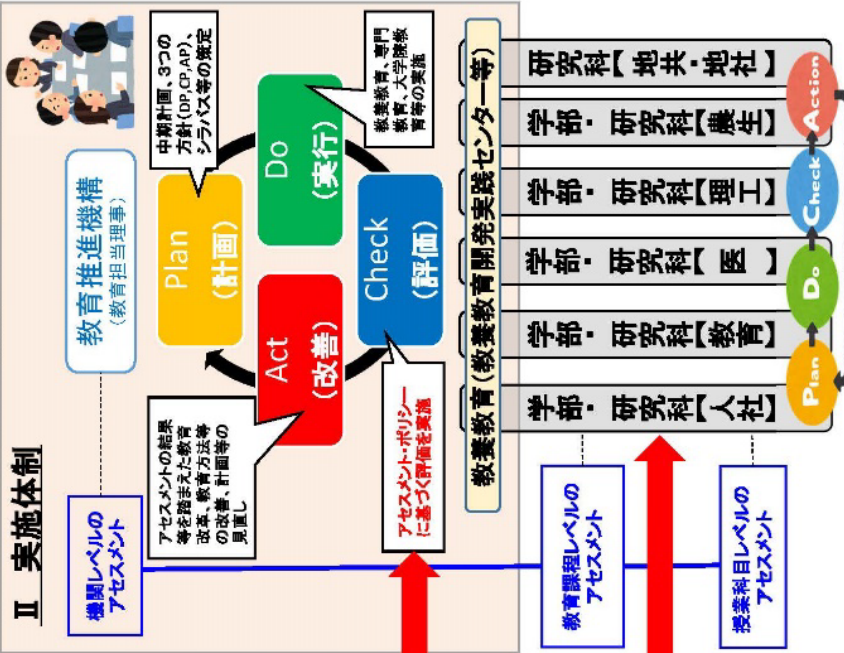


図 I-1 弘前大学における「アセスメント・ポリシー」に基づく教育の質保証体制等

II アセスメントの結果について

項目1 入学状況、進学・留年・退学の状況、卒業や進路の状況

1 目的及び実施方法

弘前大学アセスメント・ポリシーに基づき、令和4（2022）事業年度の組織評価の結果（令和5年10月16日役員会報告）及び国立大学法人弘前大学組織評価実施要項に定める評価指標により、各学部・研究科の卒業認定・学位授与の方針による教育課程の有効性について検証を行い、もって、本学の教育改革、教育方法の改善及び学習支援等に活用することを目的としてアセスメントを実施した。

2 検証及び評価

組織評価実施要項に定める評価指標を利用し、入学、進学、留年及び卒業、休学及び退学、進路の状況について、令和5年度と令和4年度との経年比較等により検証・評価した。

(1) 入学等の状況

各学部における前期日程及び後期日程における志願倍率は、人文社会科学部 4.2（前年度 4.2）、教育学部 3.4（5.6）、医学部医学科 6.9（5.3）、医学部保健学科 2.2（4.4）、医学部心理支援科学科 2.4（2.6）、理工学部 3.8（5.0）、農学生命科学部 4.1（3.7）倍となっている。

志願倍率は、「国立大学学部系統別志願倍率」等を基準値として、以下のとおり評価した。なお、基準値は人文社会科学部 3.8、教育学部 3.6、医学部医学科 4.8、医学部保健学科 2.6、医学部心理支援科学科 2.7、理工学部 3.8、農学生命科学部 4.0 倍である。

基準値比較では、人文社会科学部、医学部医学科及び理工学部は前年度に引き続き「良好」、農学生命科学部は前年度「おおむね良好」から1段階引き上げ「良好」、教育学部及び医学部保健学科は前年度「良好」から1段階下がり「おおむね良好」、医学部心理支援科学科は「おおむね良好」となっており、

全ての学部において、維持または改善されていると評価できる。

評価	部局
良好（基準値以上）	人文社会科学部、医学部医学科、理工学部、農学生命科学部
おおむね良好（基準値未満だが近似値）	教育学部、医学部保健学科、医学部心理支援科学科
不十分（基準値未満で近似値にない）	該当なし

各研究科における入学定員充足率は、人文社会科学研究科 118.8%、教育学研究科 88.9%、医学研究科 98.3%、保健学研究科博士前期課程 90.0%・博士後期課程 108.3%、理工学研究科博士前期課程 112.5%・博士後期課程 91.7%、農学生命科学研究科 126.0%、地域社会研究科 116.7%、地域共創科学研究科 86.7%であった。

充足率 90%を基準値とし、90%を満たしていれば「良好」、満たしていなければ「不十分」として、以下のとおり評価した。

評価	部局
良好	人文社会科学研究科、医学研究科、保健学研究科、理工学研究科、農学生命科学研究科、地域社会研究科、
不十分	教育学研究科、地域共創科学研究科

また、各研究科の収容定員充足率は、人文社会科学研究科 146.9%、教育学研究科 94.4%、医学研究科 123.3%、保健学研究科博士前期課程 111.7%・博士後期課程 150.0%、理工学研究科博士前期課程 109.2%・博士後期課程 97.2%、農学生命科学研究科 104.0%、地域社会研究科 188.9%、地域共創科学研究科 115.0%であった。

充足率が 90%を満たしていれば「良好」、充足率が 90%を満たしていないまたは 110%を上回っている場合は「不十分」として、以下のとおり評価した。

評価	部局
良好	教育学研究科、理工学研究科、農学生命科学研究科
不十分	人文社会科学研究科、医学研究科、保健学研究科、地域社会研究科、地域共創科学研究科

(2) 進学状況

学部卒業者の大学院進学率は、以下のとおり。組織評価では調査項目としていないため、組織調査で利用している弘前大学 IR データに基づき検証した。

なお、医学部医学科はほとんどが臨床研修に進むため、調査から除外した。

学部		人社	教育	保健	理工	農生
進学率 (%)	令和 5 年度	2.9	5.4	12.2	43.9	25.8
	令和 4 年度	3.2	7.9	8.5	43.4	31.8

上記の進学率が昨年度より増加していれば「良好」、昨年度と同程度（▲1.0%以内）の場合は「おおむね良好」、昨年度より減少し同程度にもない場合は「不十分」として、以下のとおり評価した。

評価	部局
良好	医学部保健学科、理工学部
おおむね良好	人文社会科学部
不十分	教育学部、農学生命科学部

(3) 留年及び卒業の状況

留年の状況については、学部の留年率は以下のとおり。組織評価では調査項目としていないため、組織調査で利用している弘前大学 IR データに基づき検証した。

なお、留年者数は標準修業年限を超えて在学する学生数として、長期履修学生は除いている。また、医学部心理支援科学科は令和2年度設置により前年度までの実績がないため、評価の対象としない。

学 部		人社	教育	医	保健	心理	理工	農生
留年率 (%)	令和5年度	2.1	2.7	3.9	1.2	2.4	3.8	3.2
	令和4年度	3.8	3.3	3.9	0.5	-	3.2	2.1

留年率が昨年度より減少していれば「良好」、昨年度と同程度（▲1.0%以内）の場合は「おおむね良好」、昨年度より増加し同程度にもない場合は「不十分」として、以下のとおり評価した。

評価	部局
良好	人文社会科学部、教育学部
おおむね良好	医学部医学科、医学部保健学科、理工学部
不十分	農学生命科学部

卒業の状況については、学部の卒業率は以下のとおり。長期履修制度を活用した在学生の有無などを勘案し、大学院を除いて、学部における修業年限内での卒業について検証した。

なお、医学部医学科はほとんどが臨床研修に進むため、経年比較のみの参考値とし、また、医学部心理支援科学科は令和5年度が初の卒業生となるため、評価の対象としていない。

学 部		人社	教育	医	保健	心理	理工	農生
修業年限での卒業率 (%)	令和5年度	89.3	89.7	76.5	92.2	90.0	86.8	88.1
	令和4年度	88.5	93.3	68.9	94.2	-	88.3	86.9

卒業率が昨年度より増加していれば「良好」、昨年度と同程度（▲1.0%以内）の場合は「おおむね良好」、昨年度より減少し同程度にもない場合は「不十分」として、以下のとおり評価した。

評価	部局
良好	人文社会科学部、農学生命科学部
おおむね良好	該当なし
不十分	教育学部、医学部保健学科、理工学部

(4) 休学及び退学の状況

休学の状況について、各学部及び研究科の休学率は、以下のとおり。

休学の理由は、学部では進路再考（37.6%）、病気（19.4%）、一身上の都合（9.7%）、大学院では職務復帰・専念（34.5%）、その他（33.3%）、進路再考（8.0%）の順となっている。なお、留学を理由とした休学は、調査対象から除いた。

<学 部>

学 部		人社	教育	医	保健	心理	理工	農生
休学率 (%)	令和5年度	1.4	1.4	0.5	0.8	0.0	1.6	2.4
	令和4年度	1.8	0.8	1.1	0.9	0.0	1.3	1.4

<大学院>

研究科		人社	教育	医	保健	理工	農生	地社	地共
休学率 (%)	令和5年度	4.3	2.9	17.6	6.6	1.7	3.8	35.3	2.9
	令和4年度	10.6	5.0	15.3	4.7	1.4	2.2	25.6	1.6

休学率が昨年度より減少していれば「良好」、昨年度と同程度（▲1.0%以内）の場合は「おおむね良好」、昨年度より増加し同程度にもない場合は「不十分」として、以下のとおり評価した。

評価	部局
良好	(学部) 人文社会科学部、医学部医学科、医学部保健学科、医学部心理支援科学科 (大学院) 人文社会科学研究科、教育学研究科
おおむね良好	(学部) 教育学部、理工学部、農学生命科学部 (大学院) 理工学研究科
不十分	(大学院) 医学研究科、保健学研究科、農学生命科学研究科、地域社会研究科、地域共創科学研究科

また、退学の状況について、各学部及び研究科の退学率は以下のとおり。

退学の理由は、学部では進路変更（49.2%）、修学意欲の喪失（20.6%）、病気（6.3%）の順となっている。また、大学院では進路変更（32.4%）、就職（26.5%）、一身上の都合（8.8%）の順となっている。

<学 部>

学 部		人社	教育	医	保健	心理	理工	農生
退学率 (%)	令和5年度	0.8	0.9	0.4	0.4	2.4	1.5	2.1
	令和4年度	1.2	1.1	0.6	0.6	0.0	1.6	0.8

<大学院>

研究科		人社	教育	医	保健	理工	農生	地社	地共
退学率 (%)	令和5年度	4.3	2.9	1.4	2.5	5.1	4.8	8.8	1.4
	令和4年度	8.5	2.5	1.0	1.6	1.4	6.7	5.1	0.0

退学率が昨年度より減少している、または実績がない場合は「良好」、昨年度と同程度（▲1.0%以内）の場合は「おおむね良好」、昨年度より増加し同程度にもない場合は「不十分」として、以下のとおり評価した。

評価	部局
良好	(学部) 人文社会科学部、教育学部、医学部医学科、医学部保健学科、理工学部 (大学院) 人文社会科学研究科、農学生命科学研究科、
おおむね良好	(大学院) 教育学研究科、医学研究科、保健学研究科
不十分	(学部) 医学部心理支援科学科、農学生命科学部 (大学院) 理工学研究科、地域社会研究科、地域共創科学研究科

(5) 進路(就職)の状況

就職希望者における就職率は、以下のとおり。

組織評価では、就職・進学率としているため、令和5年度卒業・修了者の進路状況調査票(令和6年5月1日現在)の数値に基づき検証した。

なお、医学部医学科は、ほとんどが臨床研修に進むため調査から除外した。

<学部>

学部		人社	教育	保健	心理	理工	農生
就職率 (%)	令和5年度	99.6	98.6	100.0	100.0	96.7	98.7
	令和4年度	98.0	100.0	100.0	-	97.2	97.9

<大学院>

研究科		人社	教育	医	保健	理工	農生	地社	地共
就職率 (%)	令和5年度	100.0	100.0	100.0	100.0	99.6	100.0	100.0	96.3
	令和4年度	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	96.8	100.0	100.0

※保健学研究科は、博士前期課程・博士後期課程とも100.0%。理工学研究科は、博士前期課程99.1%・博士後期課程100%で上記就職率はその平均としている。

就職率が昨年度より増加しているまたは当該比率 100%の場合は「良好」、昨年度と同程度（▲1.0%以内）の場合は「おおむね良好」、昨年度より減少し同程度にもない場合は「不十分」として、以下のとおり評価した。

評価	部局
良好	(学部) 人文社会科学部、医学部保健学科、医学部心理支援科学科、 農学生命科学部 (大学院) 人文社会科学研究科、教育学研究科、医学研究科、保健学 研究科、農学生命科学研究科、地域社会研究科
おおむね良好	(学部) 理工学部 (大学院) 理工学研究科
不十分	(学部) 教育学部 (大学院) 地域共創科学研究科

項目2 教育活動、研究活動及び社会との連携等の状況

本調査項目については、令和5事業年度組織評価の結果等に基づき検証した。

組織評価の目的は、「当該評価を通じてそれぞれの教育研究活動等を明らかにし、もって本学の教育研究等の質の向上及び機能強化の推進に資すること」である。なお、令和4事業年度分からの評価方法については、従来、①教育研究活動等の状況と②評価指標に関する状況の各項目で評点を付し、その合計を総合評点とする方法から、①と②を総合的に評価して評点を決定する方法等に見直されている。

組織評価では、部局への意見聴取や評価基準に基づいて、教育、研究、社会との連携に関する活動状況等について、それぞれ5段階（1～5点。3点「取組等が順調に行われている。」が中間値）での評価が行われている。

評価結果では、全ての学部及び研究科において、3点以上の評価となっており、本学の教育、研究及び社会連携等の活動が順調に行われていると評価できる。

なお、組織評価の結果については、評価のコメントと併せて各学部等にフィードバックされている。

各活動分野に関する、主な評価コメントは以下のとおり。

【教育】

- ・教職支援センター開設など教員養成機能の強化が進められ、教員就職率の向上が見られた。また、教職大学院を核に実施している日本語教師養成プログラムの開始が文部科学省より特色ある取組として評価される成果があった。（教育）
- ・地域の課題を解決するための人材育成の取組が進められ、学生の研究発表や受賞などに成果が見られる。（保健）
- ・学部教育では全学の数理・データサイエンス教育の充実に貢献し、大学院では産業界から要請される多様な価値観をもつ人材育成教育の推進に特色が見られる。多数の博士後期課程学生が次世代研究者挑戦的プログラムに採択される顕著な成果があった。（理工）
- ・地域の産業界から要請される人材育成のため、カリキュラム見直しなど教育体制の充実を図る取組が進められ、修了者の県内就職率は約25%前後と比較的高い値を維持している。（地共）

【研究】

- ・超人口減少社会に対応した教育開発を目指す次世代ウェルビーイング研究センターが発足し、課題解決に向けた取組が始まり、関連の科研費の獲得につながった。また、同センターを中心に県内の学校・教育機関との連携が進み、様々な取組が進行し、NITS事業に採択され、東北・北海道唯一の地域センターになるなどの成果が見られる。（教育）

- ・研究業績数、国際共著論文数、分野トップ10%論文数、科研費受入件数、共同研究・受託研究・受託事業受入額など高いレベルが維持されており、企業の共同研究講座数も引き続き伸びている。(医学)
- ・高い研究レベル(研究業績数、科研費受入件数など)が維持されており、学部横断研究が積極的に進められるなどの取組により、共同研究と受託研究の受入額に顕著な伸びが見られる。(理工)
- ・新商品、新品種開発など技術開発の実用化件数とプレスリリース数が目標値を大きく上回る成果が得られた。学部活性化経費を活用して若手教員の海外出張を補助し国際化を推進する取組が興味深い。(農生)

【社会連携】

- ・地域と協力し、希少な歴史的資料など地域文化資源の活用、あるいは今後予想される人口減少の加速によって生じる地域課題を解決しようとする取組が進められている。(人社)
- ・COI事業で進められてきたQOL検診の全国展開などさらに活発な活動が進展している。(医学)
- ・県内外との企業との連携により教員の研究成果に基づく活発な商品開発が継続され、白神自然環境観察園では日本最大級のバイオブリッツイベントが開始されるなど特色ある取組が展開された。(農生)
- ・地域と連携した取組が進められ、県内外の企業・自治体との包括連携協定に基づく共同研究・連携事業が積極的に展開されており、「町会担い手育成事業」に見られる成功例も出てきて、今後の進展が期待される。(地社)

<組織評価の評点>

活動状況	人社	教育	医学	保健	理工	農生	地社	地共
教育	4	4	4	4	4	3	3	3
研究	3	3	5	3	5	4	3	3
社会連携	3	3	5	3	4	4	3	3

項目3 カリキュラム・チェックの実施結果

1 調査対象

令和6(2024)年度に開講予定の学部・大学院の全授業科目

2 実施時期

令和6(2024)年3月にカリキュラム(シラバス)・チェックを実施し、実施結果及び各学部等におけるカリキュラム・チェックの実施形態、実施時の問題点等を調査票により、6月28日までに提出

3 実施内容

本学の学部教育では、「カリキュラム・ポリシー(以下「CP」という。)」及び「ディプロマ・ポリシー(以下「DP」という。)」に3つの柱「見通す力」、「解決していく力」、「学び続ける力」を全学的共通ポリシーとして定め、さらに各学部において3つの柱に基づくポリシーを定めている。

令和5(2023)年度は、各授業の到達目標において全授業科目が各学部のポリシーに即した授業を実施しているか、適切な授業レベル(難易度)で構成されているかを確認した。授業科目の難易度については、教育推進機構において以下のとおりレベル1~5まで定めている。

- ・レベル1・・・ 学士課程教育における本格的な学修を開始するための準備段階(高校までの既習知識を振り返った上で、これから始まる大学での学びを展望するような科目)
- ・レベル2・・・ 学士課程教育の初期において学ぶべき、基礎的・基本的な事柄を学ぶ段階(大学での学びの準備が整ったことを前提に、初歩的・入門的なことを学ぶような科目)
- ・レベル3・・・ 基礎・基本の習得を前提として、さらに深く学ぶ段階(大学での既習知識を活かして、発展的・応用的なことを学ぶような科目)
- ・レベル4・・・ 学士課程教育の最終段階として高度な学識を学ぶ段階(卒業研究や専門職資格を得るための最終段階にあたるような科目)
- ・レベル5・・・ 大学院において学術及び専門職的実践について研究し、高い専門性を学んでいく段階(学生の研究活動と関連して、高度な専門知識・技能を自律的に学んでいく科目)

なお、大学院のカリキュラム・チェックについては、研究科毎のDPに項目毎に付番を設定し、シラバス上で対応するDPを全授業科目で示した上で、到達目標とのチェックを実施している。

また、シラバス・チェックについても、カリキュラム・チェックにあわせて効果的に実施し、各学部・研究科の自己評価委員会等において検証作業が行われている。

4 実施結果

各教育課程における各授業の到達目標は、全ての授業科目が CP、DP で求める 3 つの柱のいずれかに該当し実施されており、授業レベルについても、全ての授業科目が適切なレベルに設定されていると判断される。

また、法令で定める大学設置基準、教職課程認定基準、養成所指定規則等については、各教育課程で作成されているカリキュラム・マップや履修モデルから問題なく授業が構成されており、所要の要件を満たしている。

教養教育科目は、令和 4（2023）年度から授業科目群について見直しを行い、新たな構成となっている。

各研究科における各授業の到達目標は、全ての授業科目が設定された DP との整合性をもって実施されている。

なお、カリキュラム・チェックの実施にあたっては、定期的にシラバス作成に係る FD や説明会等を各組織が積極的に開催し、組織内での情報共有が図られている。また、各組織の自己評価委員等が各授業の到達目標を確認し、記載内容に誤りがあった場合には授業担当教員に修正を依頼するなど、検証・改善作業を実施していることが調査票により確認された。

シラバス・チェックについては、最初に教務課において全ての授業科目について入力漏れや記載の適切性の確認を行い、その後、各学部・研究科において自己評価委員会等がカリキュラム・チェックを実施している。不具合等があった場合は、当該授業担当教員に改善させる等しており、また、ほとんどの部局において、カリキュラム・チェックの結果と併せて各教授会等で結果について報告されている。

なお、シラバスの作成・チェックについては、まず、授業担当教員が関係法令や作成要領を踏まえて作成することが大前提であるが、これをチェックするための各部局等事務や自己評価委員会等でのチェック漏れを防ぐ工夫が必要である。この人為的ミスを防止するため、令和 3（2021）年 3 月に学務情報システムが改修され、入力必須項目に対して入力されずに登録を行った場合は、エラーが表示されるように改善されている。

以下は各学部等における到達目標における CP/DP の対応及び科目難易度の構成の状況である。

表Ⅱ－１ 教養教育における CP/DP 及び難易度の構成

科目群	難易度	見通す力	解決していく力	学び続ける力	科目数
スタディスキル導入科目	レベル1		○	○	108
データサイエンス科目（基礎・数学）	レベル1	○	○		19
データサイエンス科目（発展・ビジネス）	レベル2	○	○	○	5
グローバル科目	レベル2	○	○		112
社会・文化	レベル2	○			56
自然・科学	レベル2	○			53
人間・生命	レベル2	○			49
キャリア教育（基礎）	レベル1		○		11
キャリア教育（発展）	レベル2		○	○	3
キャリア教育（実践・デザイン）	レベル3		○	○	28
英語（Communication）	レベル2	○		○	208
英語（Academic Writing & Presentation、Content & English Integrated Learning、English for Global Communication、English for Tests）	レベル3		○	○	6
多言語	レベル2	○		○	35
日本語	レベル2	○		○	14
合計					707

※ 教養教育科目については、各科目群において対応する CP/DP 及び難易度を設定しており、対応する CP/DP に基づき、これに属する授業科目の到達目標を定めている。

表Ⅱ－２ 人文社会科学部における CP/DP 及び難易度の構成

学科等名：文化創生課程文化資源学コース

科目区分	CP / DP	対象科目数（累計）					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
学部基本科目	見通す力	11	1	0	0	12	12
	解決していく力	5	0	0	0	5	
	学び続ける力	4	1	0	0	5	
学部専門科目	見通す力	6	49	19	2	76	75
	解決していく力	4	37	20	2	63	
	学び続ける力	2	41	15	4	62	

学科等名：文化創生課程多文化共生コース

科目区分	CP / DP	対象科目数（累計）					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
学部基本科目	見通す力	10	0	0	0	10	10
	解決していく力	4	0	0	0	4	
	学び続ける力	4	0	0	0	4	
学部専門科目	見通す力	29	52	33	8	122	101
	解決していく力	16	27	21	5	69	
	学び続ける力	16	39	29	9	93	

学科等名：社会経営課程経済法律コース

科目区分	CP / DP	対象科目数 (累計)					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
学部基本科目	見通す力	9	1	0	0	10	10
	解決していく力	4	0	0	0	4	
	学び続ける力	3	1	0	0	4	
学部専門科目	見通す力	4	33	12	2	51	62
	解決していく力	2	23	10	3	38	
	学び続ける力	1	11	7	2	21	

学科等名：社会経営課程企業戦略コース

科目区分	CP / DP	対象科目数 (累計)					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
学部基本科目	見通す力	9	1	0	0	10	10
	解決していく力	4	0	0	0	4	
	学び続ける力	3	1	0	0	4	
学部専門科目	見通す力	8	19	13	2	42	43
	解決していく力	7	15	9	2	33	
	学び続ける力	1	0	6	2	9	

学科等名：社会経営課程地域行動コース

科目区分	CP / DP	対象科目数 (累計)					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
学部基本科目	見通す力	9	1	0	0	10	10
	解決していく力	4	0	0	0	4	
	学び続ける力	3	1	0	0	4	
学部専門科目	見通す力	7	25	6	0	38	38
	解決していく力	2	11	6	0	19	
	学び続ける力	1	14	4	0	19	

表Ⅱ-3 教育学部におけるCP/DP及び難易度の構成

学科等名：学校教育教員養成課程

科目区分	CP / DP	対象科目数 (累計)					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
学部共通科目	見通す力	6	6	5	2	19	15
	解決していく力	5	5	6	2	18	
	学び続ける力	4	4	5	2	15	
専門教育科目	見通す力	58	189	163	26	436	407
	解決していく力	41	160	144	27	372	
	学び続ける力	19	98	110	20	247	
教職科目	見通す力	6	56	56	14	132	124
	解決していく力	2	39	63	16	120	
	学び続ける力	1	16	34	9	60	

学科等名：養護教諭養成課程

科目区分	CP / DP	対象科目数 (累計)					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
専門教育科目	見通す力	13	22	15	7	57	41
	解決していく力	7	14	18	9	48	
	学び続ける力	9	10	7	9	35	
教職科目	見通す力	0	5	7	4	16	15
	解決していく力	0	1	7	4	12	
	学び続ける力	0	1	2	4	7	

表Ⅱ-4 医学部におけるCP/DP及び難易度の構成

学科等名：医学科

科目区分	CP / DP	対象科目数 (累計)					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
専門基礎科目	見通す力	1	3	2	0	6	6
	解決していく力	0	0	0	0	0	
	学び続ける力	0	0	0	0	0	
専門科目 (コア科目)	見通す力	2	11	43	0	56	57
	解決していく力	0	0	4	0	4	
	学び続ける力	0	0	1	0	1	
専門科目 (演習・実習 科目)	見通す力	2	0	0	3	5	19
	解決していく力	2	9	4	4	19	
	学び続ける力	0	0	3	3	6	

学科等名：保健学科看護学専攻

科目区分	CP / DP	対象科目数 (累計)					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
専門共通科目	見通す力	4	5	2	1	12	11
	解決していく力	3	4	2	1	10	
	学び続ける力	0	2	1	1	4	
専門基礎科目	見通す力	0	9	6	1	16	13
	解決していく力	0	4	2	1	7	
	学び続ける力	0	1	0	1	2	
専門科目	見通す力	4	42	39	17	102	78
	解決していく力	3	26	34	16	79	
	学び続ける力	1	23	26	16	66	
卒業研究	見通す力	0	0	0	2	2	2
	解決していく力	0	0	0	2	2	
	学び続ける力	0	0	0	2	2	

学科等名：保健学科放射線技術科学専攻

科目区分	CP / DP	対象科目数 (累計)					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
専門共通科目	見通す力	4	5	2	1	12	12
	解決していく力	3	5	2	1	11	
	学び続ける力	0	2	1	1	4	
専門基礎科目	見通す力	2	8	11	0	21	22
	解決していく力	0	6	11	1	18	
	学び続ける力	1	6	10	0	17	
専門科目	見通す力	1	7	19	3	30	33
	解決していく力	1	8	18	5	32	
	学び続ける力	0	4	20	6	30	
卒業研究	見通す力	0	0	0	3	3	3
	解決していく力	0	0	0	3	3	
	学び続ける力	0	0	0	3	3	

学科等名：保健学科検査技術科学専攻

科目区分	CP / DP	対象科目数 (累計)					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
専門共通科目	見通す力	4	6	2	1	13	13
	解決していく力	3	6	2	1	12	
	学び続ける力	0	3	1	1	5	
専門基礎科目	見通す力	7	6	0	0	13	18
	解決していく力	8	1	0	0	9	
	学び続ける力	1	7	0	0	8	
専門科目	見通す力	0	29	13	1	43	62
	解決していく力	0	37	15	1	53	
	学び続ける力	0	1	12	1	14	
卒業研究	見通す力	0	0	0	3	3	3
	解決していく力	0	0	0	3	3	
	学び続ける力	0	0	0	3	3	

学科等名：保健学科理学療法学専攻

科目区分	CP / DP	対象科目数 (累計)					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
専門共通科目	見通す力	4	5	3	1	13	14
	解決していく力	3	6	3	1	13	
	学び続ける力	0	2	1	1	4	
専門基礎科目	見通す力	2	14	4	0	20	20
	解決していく力	1	10	3	0	14	
	学び続ける力	0	5	3	0	8	
専門科目	見通す力	3	10	26	3	42	38
	解決していく力	3	9	27	3	42	
	学び続ける力	2	10	20	3	35	
卒業研究	見通す力	0	0	0	1	1	1
	解決していく力	0	0	0	1	1	
	学び続ける力	0	0	0	1	1	

学科等名：保健学科作業療法学専攻

科目区分	CP / DP	対象科目数 (累計)					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
専門共通科目	見通す力	4	5	3	1	13	14
	解決していく力	3	6	3	1	13	
	学び続ける力	0	2	1	1	4	
専門基礎科目	見通す力	2	11	4	0	17	18
	解決していく力	1	10	4	0	15	
	学び続ける力	0	5	3	0	8	
専門科目	見通す力	2	14	10	3	29	29
	解決していく力	1	12	10	4	27	
	学び続ける力	1	1	2	3	7	
卒業研究	見通す力	0	0	0	1	1	1
	解決していく力	0	0	0	1	1	
	学び続ける力	0	0	0	1	1	

学科等名：心理支援科学科

科目区分	CP / DP	対象科目数（累計）					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
専門基礎科目	見通す力	2	13	1	1	17	17
	解決していく力	1	9	1	1	12	
	学び続ける力	0	5	1	1	7	
専門応用科目	見通す力	5	32	18	5	60	56
	解決していく力	4	23	17	5	49	
	学び続ける力	1	10	10	4	25	
卒業研究	見通す力	0	0	2	2	4	3
	解決していく力	0	0	2	2	4	
	学び続ける力	0	0	2	2	4	

表Ⅱ－５ 理工学部における CP/DP 及び難易度の構成

学科等名：数物科学科

科目区分	CP / DP	対象科目数（累計）					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
専門基礎科目	見通す力	11	24	5	0	40	42
	解決していく力	7	25	4	0	36	
	学び続ける力	0	0	0	0	0	
専門応用科目	見通す力	3	8	30	2	43	50
	解決していく力	1	4	18	12	35	
	学び続ける力	0	1	5	10	16	
マネジメント科目	見通す力	1	2	4	2	9	6
	解決していく力	1	0	1	0	2	
	学び続ける力	1	0	1	1	3	
卒業研究	見通す力0	0	0	0	2	2	2
	解決していく力	0	0	0	2	2	
	学び続ける力	0	0	0	2	2	

学科等名：物質創成化学科

科目区分	CP / DP	対象科目数（累計）					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
専門基礎科目	見通す力	5	5	0	0	10	10
	解決していく力	0	4	0	0	4	
	学び続ける力	0	0	0	0	0	
専門応用科目	見通す力	0	11	19	1	31	38
	解決していく力	0	14	11	1	26	
	学び続ける力	0	0	2	1	3	
マネジメント科目	見通す力	1	2	4	2	9	6
	解決していく力	1	0	1	0	2	
	学び続ける力	1	0	1	1	3	
卒業研究	見通す力	0	0	1	2	3	3
	解決していく力	0	0	1	2	3	
	学び続ける力	0	0	1	2	3	

学科等名：地球環境防災学科

科目区分	CP / DP	対象科目数 (累計)					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
専門基礎科目	見通す力	6	9	2	2	19	12
	解決していく力	2	5	0	0	7	
	学び続ける力	0	0	0	0	0	
専門応用科目	見通す力	1	16	22	0	39	47
	解決していく力	0	9	16	4	29	
	学び続ける力	0	5	7	1	13	
マネジメント科目	見通す力	1	2	4	2	9	6
	解決していく力	1	0	1	0	2	
	学び続ける力	1	0	1	1	3	
卒業研究	見通す力	0	0	0	2	2	2
	解決していく力	0	0	0	2	2	
	学び続ける力	0	0	0	2	2	

学科等名：電子情報工学科

科目区分	CP / DP	対象科目数 (累計)					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
専門基礎科目	見通す力	10	6	0	0	16	16
	解決していく力	6	3	0	0	9	
	学び続ける力	1	3	0	0	4	
専門応用科目	見通す力	0	10	19	1	30	35
	解決していく力	0	11	18	1	30	
	学び続ける力	0	2	4	0	6	
マネジメント科目	見通す力	1	2	4	2	9	6
	解決していく力	1	0	2	0	3	
	学び続ける力	1	0	1	1	3	
卒業研究	見通す力	0	0	0	2	2	2
	解決していく力	0	0	0	2	2	
	学び続ける力	0	0	0	2	2	

学科等名：機械工学科

科目区分	CP / DP	対象科目数 (累計)					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
専門基礎科目	見通す力	8	10	0	0	18	19
	解決していく力	6	10	0	0	16	
	学び続ける力	3	3	0	0	6	
専門応用科目	見通す力	1	18	27	2	48	49
	解決していく力	1	16	22	2	41	
	学び続ける力	0	4	15	0	19	
マネジメント科目	見通す力	1	2	4	1	8	6
	解決していく力	1	0	3	0	4	
	学び続ける力	1	0	1	0	2	
卒業研究	見通す力	0	0	0	2	2	2
	解決していく力	0	0	0	2	2	
	学び続ける力	0	0	0	2	2	

学科等名：自然エネルギー学科

科目区分	CP / DP	対象科目数 (累計)					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
専門基礎科目	見通す力	7	4	0	0	11	12
	解決していく力	1	5	0	0	6	
	学び続ける力	0	3	0	0	3	
専門応用科目	見通す力	3	18	16	2	39	40
	解決していく力	1	14	9	2	26	
	学び続ける力	1	1	7	2	11	
マネジメント科目	見通す力	1	2	4	2	9	6
	解決していく力	1	0	1	0	2	
	学び続ける力	1	0	1	1	3	
卒業研究	見通す力	0	0	0	2	2	2
	解決していく力	0	0	0	2	2	
	学び続ける力	0	0	0	2	2	

表Ⅱ-6 農学生命科学部におけるCP/DP及び難易度の構成

学科等名：生物学科

科目区分	CP / DP	対象科目数 (累計)					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
コア科目	見通す力	0	8	11	2	21	23
	解決していく力	0	4	6	2	12	
	学び続ける力	0	7	8	2	17	
専門基礎科目 ／専門科目	見通す力	2	36	41	2	81	81
	解決していく力	2	21	18	1	42	
	学び続ける力	0	10	18	1	29	

学科等名：分子生命科学科

科目区分	CP / DP	対象科目数 (累計)					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
コア科目	見通す力	0	9	7	3	19	18
	解決していく力	0	4	4	3	11	
	学び続ける力	0	7	4	2	13	
専門基礎科目 ／専門科目	見通す力	1	24	37	1	63	62
	解決していく力	1	15	17	1	34	
	学び続ける力	0	4	17	1	22	

学科等名：食料資源学科

科目区分	CP / DP	対象科目数 (累計)					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
コア科目	見通す力	0	7	10	1	18	19
	解決していく力	0	4	7	1	12	
	学び続ける力	0	1	3	1	5	
専門基礎科目 ／専門科目	見通す力	1	28	53	4	86	86
	解決していく力	1	15	35	3	54	
	学び続ける力	0	10	26	3	39	

学科等名：国際園芸農学科

科目区分	CP / DP	対象科目数 (累計)					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
コア科目	見通す力	0	10	3	2	15	15
	解決していく力	0	5	0	2	7	
	学び続ける力	0	5	1	2	8	
専門基礎科目 ／専門科目	見通す力	1	29	52	1	83	86
	解決していく力	1	18	28	0	47	
	学び続ける力	0	10	35	1	46	

学科等名：地域環境工学科

科目区分	CP / DP	対象科目数 (累計)					科目数
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	
コア科目	見通す力	0	7	13	1	21	21
	解決していく力	0	2	2	1	5	
	学び続ける力	0	1	1	1	3	
専門基礎科目 ／専門科目	見通す力	1	22	29	6	58	61
	解決していく力	1	11	15	4	31	
	学び続ける力	0	7	11	4	22	

表Ⅱ-7 人文社会科学研究科におけるCP/DP及び難易度の構成

専攻名：人文社会科学専攻文化芸術コース

科目区分	対象科目数 (累計)				科目数
	DP1	DP2	DP3	計	
専攻共通科目	1	3	3	7	4
専門科目	53	4	89	146	142

専攻名：人文社会科学専攻現代共生コース

科目区分	対象科目数 (累計)				科目数
	DP1	DP2	DP3	計	
専攻共通科目	1	3	3	7	4
専門科目	60	4	82	146	142

専攻名：人文社会科学専攻政策科学コース

科目区分	対象科目数 (累計)				科目数
	DP1	DP2	DP3	計	
専攻共通科目	1	3	3	7	4
専門科目	37	4	105	146	142

表Ⅱ－８ 教育学研究科における CP/DP 及び難易度の構成

専攻名：教職実践専攻

科目区分	対象科目数（累計）					科目数
	DP1	DP2	DP3	DP4	計	
専攻共通科目	89	49	81	40	259	113

表Ⅱ－９ 医学研究科における CP/DP 及び難易度の構成

専攻名：医科学専攻

科目区分	対象科目数（累計）				科目数
	DP1	DP2	DP3	計	
共通科目	24	11	1	36	29
専門科目	102	159	86	347	265

表Ⅱ－１０ 保健学研究科における CP/DP 及び難易度の構成

専攻名：保健学専攻（博士前期課程）

科目区分	対象科目数（累計）				科目数
	DP1	DP2	DP3	計	
保健学共通コア科目	3	4	4	11	4
専門科目	35	37	24	96	75
被ばく医療共通科目	3	3	1	7	3
被ばく医療専門科目	4	4	3	11	4
放射線看護高度看護 実践コース共通科目	6	7	4	17	7
放射線看護高度看護 実践コース専門科目	12	12	10	34	12

専攻名：保健学専攻（博士後期課程）

科目区分	対象科目数（累計）				科目数
	DP1	DP2	DP3	計	
共通科目	1	2	1	4	2
専攻必修科目	6	10	10	26	14
被ばく医療コース 共通科目	1	1	1	3	1

専攻名：心理支援科学専攻（修士課程）

科目区分	対象科目数（累計）				科目数
	DP1	DP2	DP3	計	
保健学共通コア科目	2	2	2	6	2
専門科目	9	5	6	20	10

表Ⅱ－１１ 理工学研究科におけるCP/DP及び難易度の構成

専攻名：理工学専攻(博士前期課程)

科目区分	対象科目数（累計）					科目数
	DP1	DP2	DP3	DP4	計	
専門科目	119	118	59	6	302	119
専攻内共通科目	6	6	2	0	14	6
総合科目	5	5	1	0	11	5

専攻名：機能創成科学専攻（博士後期課程）

科目区分	対象科目数（累計）				科目数
	DP1	DP2	DP3	計	
必修科目	2	2	2	6	2
選択科目	45	45	45	135	45

専攻名：安全システム工学専攻（博士後期課程）

科目区分	対象科目数（累計）				科目数
	DP1	DP2	DP3	計	
必修科目	2	2	2	6	2
選択科目	51	51	51	153	51

表Ⅱ－１２ 農学生命科学研究科におけるCP/DP及び難易度の構成

専攻名：農学生命科学専攻

科目区分	対象科目数（累計）				科目数
	DP1	DP2	DP3	計	
専攻共通科目	87	82	81	250	93
専門科目	69	41	54	164	103
弘大テーマ科目	1	0	0	1	1

表Ⅱ－１３ 地域共創科学研究科におけるCP/DP及び難易度の構成

専攻名：地域リノベーション専攻

科目区分	対象科目数（累計）				科目数
	DP1	DP2	DP3	計	
地域共創科目	4	2	4	10	4
スキル科目	2	0	1	3	2
専攻科目	25	8	9	42	32
特別研究	8	8	8	24	8

専攻名：産業創成科学専攻

科目区分	対象科目数（累計）					科目数
	DP1	DP2	DP3	DP4	計	
地域共創科目	4	2	4	0	10	4
スキル科目	2	1	0	1	4	2
専攻科目	20	10	5	5	40	29
特別研究	8	8	8	8	32	8

表Ⅱ－14 地域社会研究科におけるCP/DP及び難易度の構成

専攻名：地域社会専攻

科目区分	対象科目数（累計）			科目数
	DP1	DP2	計	
必修科目	41	41	82	57
選択科目	28	9	37	30

項目4 成績評価を含めた授業の開講状況

1 調査対象 各教育課程

2 調査方法

令和5(2023)年度に開講した全ての授業科目について、学務情報システムにより成績データ等を抽出し、授業科目名、開講期、開講曜日・時限等、成績入力教員名、履修者数、授業科目毎の成績分布データ、「秀」評価の取得率及び不可率のほか、調査に伴って実施した改善事項等について、教育課程毎に取り纏めた上で、9月20日を期限として提出を求めた。

3 実施内容

本学では、授業の評価を以下の評語並びに基準で評価することとしており、今回の調査に当たっては、成績評価について最上位評価の「秀」から不合格である「不可」までについて、授業科目毎に算出し、成績評価の状況等について検証した。

評価(GPA点)	評点	成績評価基準
秀(4)	:(100点~90点)	到達目標を達成し、特に優秀な成績を修めている。
優(3)	:(89点~80点)	到達目標を達成し、優秀な成績を修めている。
良(2)	:(79点~70点)	到達目標を達成し、良好な成績を修めている。
可(1)	:(69点~60点)	到達目標を最低限達成している。
不可(0)	:(59点~0点)	到達目標に達していない。

なお、これらの全学の成績評価の在り方は、教育推進機構が「成績評価のガイドライン」として策定し、学内に周知している。

4 実施結果

(1) 授業の開講状況

各教育課程の授業の開講数と履修状況について、学部・研究科が開講した科目数は、前期は学部1,557科目、大学院617科目、後期は学部1,380科目、大学院556科目であった。また、通年で開講した授業は学部68科目、大学院116科目であった。

また、各学部・大学院の前期と後期それぞれの開講数については、どちらか一方に大きく偏ることなくバランスよく開講されており、特に問題となる点は見当たらない。また、非常勤講師が担当した授業科目の比率も昨年度と同程度の状況となっており、特に問題となる点は見当たらなかった。

表Ⅱ-15 各学部・研究科における授業の開講状況数

学部 / 研究科	開講科目数				内非常勤
	前期	後期	通年	合計	
教養教育	400	292	1	693	161
人文社会科学部	265	279	0	544	18
教育学部	272	250	29	551	77
医学部医学科	43	37	2	82	0
医学部保健学科	194	179	1	374	6
医学部心理支援科学科	30	30	6	66	2
理工学部	215	201	3	419	20
農学生命科学部	138	112	26	276	23
学部 合計	1,557	1,380	68	3,005	307
人文社会科学研究科	75	44	0	119	3
教育学研究科	43	40	2	85	0
医学研究科	95	141	3	239	0
保健学研究科	37	29	14	80	0
理工学研究科	256	222	0	478	4
農学生命科学研究科	71	48	49	168	3
地域共創科学研究科	30	24	40	94	2
地域社会研究科	10	8	8	26	0
大学院 合計	617	556	116	1,289	12

※通年には保健学研究科「年度跨り」5科目及び農学生命科学部「担当教員ごとに異なる」6科目を含む。

履修人数別の開講状況に着目すると、学部では3,005科目中1,775科目(59.1%)、大学院では1,289科目中1,268科目(98.4%)の授業が30人未満のクラス単位で実施されており、十分に指導や配慮が行き届く授業体制になっていると判断できる。

なお、昨年度の調査では、教養教育について10人未満の授業が106科目開講されていたことから、教員の負担や非常勤講師の件費等、合理性・経済性も含めた開講の必要性を、教養教育開発実践センター運営委員会において検証した結果、少人数での授業形態や開講科目数の妥当性・必然性について確認しており、令和5(2023)年度も109科目が開講されていた。

表Ⅱ-16 各学部・研究科における履修人数別科目

学部 / 研究科	開講科目数	履修人数別科目数					
		≥100	99-50	49-30	29-10	9-5	<5
教養教育	693	47	88	137	312	57	52
人文社会科学部	544	14	57	71	98	198	106
教育学部	551	18	38	16	205	149	125
医学部医学科	82	82	0	0	0	0	0
医学部保健学科	374	5	67	144	103	16	39
医学部心理支援科学科	66	0	0	0	42	13	11
理工学部	419	2	156	131	107	13	10
農学生命科学部	276	10	62	85	75	21	23
学部 合計	3,005	178	468	584	942	467	366
人文社会科学研究科	119	0	0	0	3	6	110
教育学研究科	85	0	0	0	18	20	47
医学研究科	239	0	4	1	2	44	188
保健学研究科	80	0	0	0	11	20	49
理工学研究科	478	0	3	5	13	49	408
農学生命科学研究科	168	0	3	1	31	42	91
地域共創科学研究科	94	0	1	3	6	11	73
地域社会研究科	26	0	0	0	0	1	25
大学院 合計	1,289	0	11	10	84	193	991

(2) 成績評価の分布等について

各学部・研究科等の成績評価の分布については、次のとおりである。

各学部・研究科の平均評点は、学部 2.69 に対して大学院 3.40 となっており、昨年度と同様、大学院の平均評点が少し高くなっている傾向にあるが、これは大学院授業科目が専門分野ごとに少人数で開講されている科目が中心となっているためと考えられる。

表Ⅱ-17-1 では、各学部・研究科間の評価の平均に着目した。評価の平均のバラツキをみると、学部間では平均値を中心として最大で 0.41、大学院間でも最大で 0.32 となっており、この程度の差異であれば十分に許容できる範囲内であると判断される。

表Ⅱ-17-1 各学部・研究科における成績分布と成績評価の平均

学部等 者数	履修	成績分布 (人)					評価の 平均	全体平 均との 比較
		秀	優	良	可	不可		
教養教育	25,246	5,003	10,044	5,869	2,705	1,625	2.59	-0.10
人文社会科学部	11,359	1,693	4,554	2,756	1,447	909	2.74	0.05
教育学部	11,410	1,738	6,140	2,387	847	298	2.85	0.16
医学部医学科	11,031	2,079	3,797	3,008	1,994	153	2.54	-0.15
医学部保健学科	14,253	3,410	6,131	2,889	1,647	176	2.74	0.05
医学部心理支援科学科	572	225	257	56	29	5	3.10	0.41
理工学部	18,383	3,651	6,318	4,015	2,881	1,518	2.45	-0.24
農学生命科学部	10,764	2,279	3,633	2,583	1,556	713	2.53	-0.16
小計 (学部)	103,018	20,078	40,874	23,563	13,106	5,397	2.69	—
人文社会科学研究科	277	124	123	24	6	0	3.41	0.01
教育学研究科	471	67	387	15	2	0	3.09	-0.31
医学研究科	962	625	247	73	9	8	3.72	0.32
保健学研究科	403	228	165	9	1	0	3.64	0.24
理工学研究科	1,773	685	830	176	44	38	3.40	0.00
農学生命科学研究科	1,063	413	519	103	19	9	3.30	-0.10
地域共創科学研究科	436	114	227	68	14	13	3.23	-0.17
地域社会研究科	39	18	20	0	0	1	3.38	-0.02
小計 (大学院)	5,424	2,274	2,518	468	95	69	3.40	—
合計	108,442	22,352	43,392	24,031	13,201	5,466	—	—

表Ⅱ-17-2 各学部・研究科における成績分布と成績評価の平均（必修科目）

学部等 者数	履修	成績分布（人）					評価の 平均	全体平 均との 比較
		秀	優	良	可	不可		
教養教育	12,022	2,194	4,912	3,038	1,312	566	2.56	-0.13
人文社会科学部	2,113	484	1,086	415	69	59	3.12	0.43
教育学部	3,961	637	2,368	608	266	82	2.86	0.17
医学部医学科	11,031	2,079	3,797	3,008	1,994	153	2.54	-0.15
医学部保健学科	12,844	3,021	5,509	2,671	1,507	136	2.70	0.01
医学部心理支援科学科	493	205	221	44	20	3	3.24	0.55
理工学部	11,612	2,529	3,949	2,521	1,790	823	2.56	-0.13
農学生命科学部	3,390	891	1,266	774	338	121	2.71	0.02
小計（学部）	57,466	12,040	23,108	13,079	7,296	1,943	2.79	—
人文社会科学研究科	19	4	12	3	0	0	2.91	-0.49
教育学研究科	258	31	212	13	2	0	2.98	-0.42
医学研究科	0	0	0	0	0	0	—	—
保健学研究科	282	163	111	7	1	0	3.64	0.24
理工学研究科	509	277	197	14	11	10	3.45	0.05
農学生命科学研究科	548	216	252	66	13	1	3.42	0.02
地域共創科学研究科	209	40	111	46	8	4	3.23	-0.17
地域社会研究科	18	9	8	0	0	1	3.23	-0.17
小計（大学院）	1,843	740	903	149	35	16	3.27	—
合計	59,309	12,780	24,011	13,228	7,331	1,959	—	—

表Ⅱ-17-3 各学部・研究科における成績分布と成績評価の平均（必修科目以外）

学部等 者数	履修	成績分布（人）					評価の 平均	全体平 均との 比較
		秀	優	良	可	不可		
教養教育	13,224	2,809	5,132	2,831	1,393	1,059	2.62	-0.07
人文社会科学部	9,246	1,209	3,468	2,341	1,378	850	2.41	-0.28
教育学部	7,449	1,101	3,772	1,779	581	216	2.84	0.15
医学部医学科	0	0	0	0	0	0	—	—
医学部保健学科	1,409	389	622	218	140	40	2.91	0.22
医学部心理支援科学科	79	20	36	12	9	2	2.86	0.17
理工学部	6,771	1,122	2,369	1,494	1,091	695	2.34	-0.35
農学生命科学部	7,374	1,388	2,367	1,809	1,218	592	2.46	-0.23
小計（学部）	45,552	8,038	17,766	10,484	5,810	3,454	2.63	—
人文社会科学研究科	258	120	111	21	6	0	3.42	0.02
教育学研究科	213	36	175	2	0	0	3.15	-0.25
医学研究科	962	625	247	73	9	8	3.72	0.32
保健学研究科	121	65	54	2	0	0	3.64	0.24
理工学研究科	1,264	408	633	162	33	28	3.36	-0.04
農学生命科学研究科	515	197	267	37	6	8	3.23	-0.17
地域共創科学研究科	227	74	116	22	6	9	3.24	-0.16
地域社会研究科	21	9	12	0	0	0	3.49	0.09
小計（大学院）	3,581	1,534	1,615	319	60	53	3.41	—
合計	49,133	9,572	19,381	10,803	5,870	3,507	—	—

表Ⅱ-18-1では、各学部・研究科間の成績分布の状況に着目した。他の学部・研究科と比較した場合、成績分布に一部偏りがあるように見えるが、学部内での均衡は適切であると認められるため、特に問題となるような点は見当たらない。

なお、「成績評価のガイドライン」においては、授業の評価方法は相対評価とすべきでなく、到達目標の達成度による絶対評価であるべきと示しているが、極端な偏りがみられる場合には、授業担当教員が授業の難易度等、授業内容及び評価方法を再考するべきとしている。これにより、各部局等においてそれぞれ成績評価について検証・確認を行い、必要な対応を行っていることを確認した。

表Ⅱ-18-1 各学部・研究科における成績分布の状況

学部等 者数	履修	成績分布 (%)				
		秀	優	良	可	不可
教養教育	25,246	19.8%	39.8%	23.2%	10.7%	6.4%
人文社会科学部	11,359	14.9%	40.1%	24.3%	12.7%	8.0%
教育学部	11,410	15.2%	53.8%	20.9%	7.4%	2.6%
医学部医学科	11,031	18.8%	34.4%	27.3%	18.1%	1.4%
医学部保健学科	14,253	23.9%	43.0%	20.3%	11.6%	1.2%
医学部心理支援科学科	572	39.3%	44.9%	9.8%	5.1%	0.9%
理工学部	18,383	19.9%	34.4%	21.8%	15.7%	8.3%
農学生命科学部	10,764	21.2%	33.8%	24.0%	14.5%	6.6%
計(学部)	103,018	19.5%	39.7%	22.9%	12.7%	5.2%
人文社会科学研究科	277	44.8%	44.4%	8.7%	2.2%	0.0%
教育学研究科	471	14.2%	82.2%	3.2%	0.4%	0.0%
医学研究科	962	65.0%	25.7%	7.6%	0.9%	0.8%
保健学研究科	403	56.6%	40.9%	2.2%	0.2%	0.0%
理工学研究科	1,773	38.6%	46.8%	9.9%	2.5%	2.1%
農学生命科学研究科	1,063	38.9%	48.8%	9.7%	1.8%	0.8%
地域共創科学研究科	436	26.1%	52.1%	15.6%	3.2%	3.0%
地域社会研究科	39	46.2%	51.3%	0.0%	0.0%	2.6%
計(大学院)	5,424	41.9%	46.4%	8.6%	1.8%	1.3%

表Ⅱ-18-2 各学部・研究科における成績分布の状況(必修科目)

学部等 者数	履修	成績分布 (%)				
		秀	優	良	可	不可
教養教育	12,022	18.2%	40.9%	25.3%	10.9%	4.7%
人文社会科学部	2,113	22.9%	51.4%	19.6%	3.3%	2.8%
教育学部	3,961	16.1%	59.8%	15.3%	6.7%	2.1%
医学部医学科	11,031	18.8%	34.4%	27.3%	18.1%	1.4%
医学部保健学科	12,844	23.5%	42.9%	20.8%	11.7%	1.1%
医学部心理支援科学科	493	41.6%	44.8%	8.9%	4.1%	0.6%
理工学部	11,612	21.8%	34.0%	21.7%	15.4%	7.1%
農学生命科学部	3,390	26.3%	37.3%	22.8%	10.0%	3.6%
計(学部)	57,466	21.0%	40.2%	22.8%	12.7%	3.4%
人文社会科学研究科	19	21.1%	63.2%	15.8%	0.0%	0.0%
教育学研究科	258	12.0%	82.2%	5.0%	0.8%	0.0%
医学研究科	0	—	—	—	—	—
保健学研究科	282	57.8%	39.4%	2.5%	0.4%	0.0%
理工学研究科	509	54.4%	38.7%	2.8%	2.2%	2.0%
農学生命科学研究科	548	39.4%	46.0%	12.0%	2.4%	0.2%
地域共創科学研究科	209	19.1%	53.1%	22.0%	3.8%	1.9%
地域社会研究科	18	50.0%	44.4%	0.0%	0.0%	5.6%
計(大学院)	1,843	40.2%	49.0%	8.1%	1.9%	0.9%

表Ⅱ-18-3 各学部・研究科における成績分布の状況（必修科目以外）

学部等 者数	履修	成績分布 (%)				
		秀	優	良	可	不可
教養教育	13,224	21.2%	38.8%	21.4%	10.5%	8.0%
人文社会科学部	9,246	13.1%	37.5%	25.3%	14.9%	9.2%
教育学部	7,449	14.8%	50.6%	23.9%	7.8%	2.9%
医学部医学科	0					
医学部保健学科	1,409	27.6%	44.1%	15.5%	9.9%	2.8%
医学部心理支援科学科	79	25.3%	45.6%	15.2%	11.4%	2.5%
理工学部	6,771	16.6%	35.0%	22.1%	16.1%	10.3%
農学生命科学部	7,374	18.8%	32.1%	24.5%	16.5%	8.0%
計(学部)	45,552	17.6%	39.0%	23.0%	12.8%	7.6%
人文社会科学研究科	258	46.5%	43.0%	8.1%	2.3%	0.0%
教育学研究科	213	16.9%	82.2%	0.9%	0.0%	0.0%
医学研究科	962	65.0%	25.7%	7.6%	0.9%	0.8%
保健学研究科	121	53.7%	44.6%	1.7%	0.0%	0.0%
理工学研究科	1,264	32.3%	50.1%	12.8%	2.6%	2.2%
農学生命科学研究科	515	38.3%	51.8%	7.2%	1.2%	1.6%
地域共創科学研究科	227	32.6%	51.1%	9.7%	2.6%	4.0%
地域社会研究科	21	42.9%	57.1%	0.0%	0.0%	0.0%
計(大学院)	3,581	42.8%	45.1%	8.9%	1.7%	1.5%

上記の他、各学部及び研究科で実施されていた取り組みを確認した。主な取り組みは以下のとおり。

- ・教養教育開発実践センター運営委員会の各部門長等が検証作業とその報告を行った。
- ・人文社会科学部では、学務委員会において、履修人数が50名以上の授業科目のうち、相対的に不可の割合が多くなっている授業科目について、到達目標の設定が過度に高くなっていないかを精査し、状況に応じて、目標の設定や学生の理解度を向上させるための授業内容の見直しについて授業担当教員に検討を依頼している。
- ・教育学部では、成績の提出時に、授業担当教員に対して、履修者が20名以上のすべての授業科目について成績（評語）の分布を作成するとともに、成績分布が偏っている場合はその理由を記述するよう義務付けている。加えて、成績評価を含めた授業の開講状況を正副学務委員長が確認・検討している。
- ・医学部保健学科及び心理支援科学科では、CP及び成績評価ガイドラインに則して、公正・厳格で、かつ客観的に実施されているか成績分布を確認したうえで、到達目標が過度に低くなっていないか、高くなっていないかなどを、「秀」評価の取得率や「不可」評価率の状況を踏まえ、各種委員会で報告・検証を行い、その結果を全教員に報告する体制をとっている。
- ・理工学部では、点検評価委員会において、全教科の「秀」評価の取得率について確認しており、取得率が極端に高い科目に対して、到達目標の設定が過度に低くなっていないか等、シラバス・講義内容の改善を依頼している。なお、講義形態の科目に対し

て、秀の割合を2割程度とすることを周知した。

また、点検評価委員会において、全教科の「不可率」について確認し、極端に不可率が高い科目に対して、到達目標の設定が過度に高くなっていないか確認し、状況に応じて、目標の設定や学生の理解度を向上させるための授業内容の見直しについて、点検評価委員会委員を通して授業担当教員に検討を依頼している。

- ・農学生命科学部では、受講生が20名以上の講義科目のうち、「秀」や「不可」の率や到達目標の設定が過度になっていないか担当教員に再確認を依頼しており、状況に応じて目標の設定や学生の理解度を向上させるための授業内容の見直しについて授業担当教員に依頼している。また、学科間で比較をし、特定の学科で評価に偏りが生じないように、各学科等において確認している。なお、集中講義で実施している科目のうち、通常時限における開講への変更について検討を依頼した。
- ・人文社会科学部研究科では、履修者が8名以上の授業科目において、「秀」評価の取得率が30%以上または不可率が30%以上に該当する授業科目について、研究科運営会議で精査している。
- ・教育学研究科では、成績評価を含めた授業の開講状況を研究科運営委員長及び副学務委員長が確認・検討している。
- ・地域社会研究科では、運営委員会において、成績分布の状況を確認しており、成績に極端な偏りが見られる科目については、状況に応じて、到達目標や授業内容の見直しを担当教員に依頼することとしている。
- ・地域共創科学研究科では、運営・入学試験委員会において、成績分布の状況を確認しており、成績に極端な偏りが見られる科目については、状況に応じて、到達目標や授業内容の見直しを担当教員に依頼することとしている。

項目5 学生支援の状況

1 調査対象

各教育課程

2 調査方法

令和5(2023)年度に実施した、学生に対する生活や進路、課外活動、経済面での援助等に関する相談・助言、支援について、教育課程毎に取り纏めた上で、9月20日を期限として提出を求めた。

3 実施内容

学生の生活、健康、就職等進路に関する相談・助言体制及び各種ハラスメント等に関する相談・助言体制、部活動や課外活動への支援、経済面での援助の状況について検証した。なお、調査は各教育課程のほか、教育推進機構及び教育委員会が実施した事業についても行った。

4 実施結果

(1) 学生相談体制

学生の相談窓口については、全学的な窓口（カウンセラー、学生特別支援室、学生総合相談室、なんでも相談）のほか、各学部・研究科でも相談内容に応じて体制を複数整備し、学生の多様な相談に対応している。また、各種ハラスメントの相談窓口については、所属する学部・研究科以外の窓口でも相談を受け付ける体制としている。

表Ⅱ-19 学生相談の状況

相談区分	令和5(2023)年度	令和4(2022)年度	増減
学生生活全般・総合的相談	1,815件	1,801件	14
修学相談・学修支援	404件	468件	▲64
進路相談・就職支援	4,030件	4,328件	▲298
経済上	2件	3件	▲1
精神・健康上	187件	576件	▲389
ハラスメント	4件	5件	▲1
計	6,442件	7,181件	▲739

表Ⅱ-19では、学生生活全般に関する相談については1,815件で前年度とほぼ同数となっており、また修学相談については404件と前年度から64件減少している。進路・就職支援に関する相談は、4,030件と前年度から298件減少しているものの、学生からの相談がもっとも多い区分となっている。その他、精神面・健康面での相談件数が187件と前年度から389件減少しているが、これは保健管理センターカウンセラーへの相談件数が大幅に減少しているのが要因となっている。

総括して、全体の相談件数は6,442件で前年度から739件減少しているが、これは、前年度までコロナによるさまざまな不安から相談件数が急増していたものと考えられる。しかしながら、本学の相談体制の充実や学生へのさまざまな支援策により、学生の修学面・精神面・健康面などの不安が解消されたものと考えられる。一方で、学生生活全般や進路に悩む学生が多いことから、引き続き、全学での相談支援体制を維持していく必要があると判断される。

このほか、学習不足により単位が修得できない学生の支援体制として学生修学支援室を設置し、前期及び後期の成績不振者を対象とした面談を令和5(2023)年度は22件、また、ピアサポーター(学生相談員)による学修相談について、履修登録時に相談員を増員して集中的に行う等して実施し、162件(昨年度169件)の相談に応じていた。

(2) 課外活動支援

令和5(2023)年度に本学が行った課外活動支援は、各団体に対して教育用の体育施設、サークル棟及び講義室の貸与のほか、活動上必要とする物品支援(1,303千円)や備品等の貸与を行っている。

課外活動支援は、各学部等においても行われている。理工学部では学生サークル「ロボティクス研究会」に講義室利用の便宜とロボットコンテストについてアドバイスを行っていた。医学部医学科では学生自治会と学部長、学務委員長等が定期的に懇談会を開催し、医学部保健学科・心理支援科学科では利用団体の調整のための本町地区体育館使用調整会議を開催するなどし、課外活動支援を行っている。また、地域社会研究科では、大学院生の課外活動に対する支援を行っていた。

(3) 主な経済的支援

令和5(2023)年度に本学が行った主な経済的支援は、以下のとおりである。

① 入学料免除

区 分	種 類	件数	金額(千円)
学部新生	高等教育の修学支援制度	229	48,974
被災学生(学部)	文科省補正予算	2	564
学部学生	学内予算(事業費)	4	1,128
大学院学生	学則分	173	27,072

② 授業料免除

区 分	種 類	件数	金額(千円)
学部学生	高等教育の修学支援制度	1,661	348,062
〃	運営費交付金(令和元年4月以前入学者)	19	3,392
私費外国人留学生	運営費交付金(〃)	14	2,767
被災学生(学部)	文科省補正予算	30	8,037
学部学生	学内予算(事業費)	21	2,991
大学院学生	運営費交付金+大学院振興事業費	485	82,499
被災学生(大学院)	文科省補正予算	2	536
新型コロナウイルス感染症に係る影響を受けて家計が急変した家庭の学生に対する授業料免除	文科省補正予算	-	-
卓越した学生に対する後期授業料免除	運営費交付金, 大学院振興事業費及びネットワン基金	50	10,875

③ 独自の奨学金

種 類	件数	金額(千円)
岩谷元彰弘前大学育英基金	30	6,000
トヨペット未来の青森県応援事業奨学金	4	1,000
弘前大学生生活協同組合学生支援金給付事業	30	3,000

学生に対する相談体制、課外活動支援及び経済的支援については、学内規程等に基づいて適正に実施されている。

このほか、各学部等において、各組織の予算による以下の支援が行われていた。

人文社会科学部では文献複写・図書借用費用の補助支援(2件)、教育学部では青森県教育委員会からの派遣により入学した者等に対して入学金及び検定料相当額等の支援(8件)、医学部では入学金と1年半分の授業料支援(5件)、入学金と授業料の支援(8件)及び修学支援金の貸与(2件)、保健学部では博士前期課程の学生に5万円を研究費とした支援(5件)、理工学部・理工学研究科ではTA(174名、8,518千円)及びRA(29名、4,430千円)の雇用及び大学院生研究発表補助金支援(19件、830千円)、地域共創科学研究科では国内学会で研究発表を行う際の旅費支給支援(5件)が行われていた。

また、弘前大学基金により、農学生命科学部・農学生命科学研究科では私費留学生の勉学支援(14件)が行われていた。

(4) その他の支援

令和4(2022)年度入学者からPCを必携化したことに伴い、経済的事情などでPC

を購入できない学生や、使用中の PC の故障・不具合等に対応するため、学務部教務課において学生貸し出し用の PC を整備している。

令和 5(2023)年度は、各学部・研究科の学生に対して、113 件の貸し出しを行っていた。

項目6 自主的学習環境の整備状況

1 調査対象

各教育課程

2 調査方法

各教育課程における自主的学習環境の整備状況について、教育課程毎に取り纏めた上で、9月20日を期限として提出を求めた。

3 実施内容

各学部・研究科等における、自習室、グループ討議室、情報機器室、教室・教育設備等の授業時間外使用等による自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか、自習室等の室数、席数、利用時間、パソコンの設置台数等の状況について検証した。また、学生からの要望により改善・見直しを行った実績についても検証した。

4 実施結果

各学部・研究科等における自習室等の整備状況は、以下のとおりである。

表Ⅱ-20 各学部・研究科における自主的学習室等の整備状況

学部・研究科名	室数	座席数	PC台数	備考
教養教育開発実践センター	2	114	55	
人文社会科学部・人文社会科学研究科	26	347	36	
教育学部・教育学研究科	3	61	0	
医学部医学科・医学研究科	16	528	150	
医学部保健学科/心理支援科学科・保健学研究科	6	199	51	
理工学部・理工学研究科	3	248	0	
農学生命科学部・農学生命科学研究科	3	50	13	
地域共創科学研究科	3	60	2	
地域社会研究科	1	15	2	
計	63	1,622	309	

本学では、夜間・休日の建物への出入りを機械式警備方式により電気錠で管理・制限しており、自主的学習環境の利用時間は限られたものとなっているが、各学部においてセキュリティカードを貸与することにより、主に学部4年次や大学院生の自由な教育研究に対応している。

自習室については、表Ⅱ-20のほか、主にパソコンルームを備えた情報基盤センターや図書館及び図書館分室などが利用できるため、学部4年次及び大学院学生が授業時間外においても十分利用できる体制が確保されている。

なお、令和2（2020）年度以降、新型コロナウイルス感染症防止対策として講義室等の利用を収容定員の2分の1以下としていたが、令和5（2023）年5月から5類感染症に移行したことにより、引き続き、感染予防対策を継続しながらも収容定員を増加させている。

また、令和5（2023）年度は、前年度に引き続き、パソコンの必携化に伴う総合教育棟201講義室等のコンセントの増設、プロジェクターの交換やケーブルのHDMI化、近隣教室との混信防止のための赤外線マイクの導入、教壇スクリーン以外でも資料等を投影できるよう天吊りのディスプレイの設置をした。

さらには、人文社会科学研究科や地域共創科学研究科において、新たに院生室にエアコンを設置、教育学部においては、附属学校で行う教育実習に際し、授業中に利用する電子黒板に順応できるよう教室に設置する等、学習環境の整備が進められている。

以上のことから、本学の自主的学習環境の整備状況は、適正であるものと判断される。

項目7 アンケート調査

7-1 在学生に対する授業評価アンケート（令和5年度）

1 調査目的

教員の授業改善及び質の保証の推進を目的として、前期及び後期開講の授業科目を対象に実施した。

2 実施期間

前期授業科目：令和5年7月11日(火)～7月18日(月)

後期授業科目：令和6年1月22日(月)～1月26日(金)

なお、予備期間として、その前後の1週間を設定。

3 調査対象科目

(1) 教養教育科目

実施期間に開講（非常勤講師の担当科目を含む）の授業科目（講義、演習）から、履修者数が5人以下の授業科目を除いた科目

(2) 専門教育科目

実施期間に開講（非常勤講師の担当科目を含む）の授業科目から、履修者数が5人以下の科目、卒業研究、臨地・臨床実習等（それに相当する科目）を除いた科目のうち、学部の裁量により調査対象として判断した授業科目

4 実施方法

人文社会科学部、教育学部、医学部保健学科、医学部心理支援科学科、理工学部、農学生命科学部の専門教育科目及び教養教育科目について、CAMPUSSQUARE を利用したオンライン方式により以下の方法で実施した。

① 授業担当教員は、授業中に10分程度の時間を設けて学生に回答させる。（オンデマンド形式の場合は、適宜、学生へ実施期間中に回答するよう指示。）

② 学生は授業担当教員の指示に従い回答する。

なお、医学部医学科の専門教育科目については、独自の設問からなるアンケート調査を実施した。設問内容が上記学部等のもとは異なるため、同じ内容の設問のみを比較対象としている。

アンケート調査結果は各学部において分析し、各授業の改善に役立てるようしており、また、回収率などの集計結果はホームページに掲載し、授業科目ごとの評価結果は学内に限定してホームページに掲載している。

5 集計結果

(1) 回収率について

各授業におけるアンケートの回収率の平均は、以下のとおりである。

人文社会科学部は前期60%、後期65%、教育学部は前期56%、後期53%、医学部保

健学科・心理支援科学科は前期 63%、後期 75%、理工学部は前期 63%、後期 60%、農学生命科学部は前期 72%、後期 69%、教養教育は前期 74%、後期 70%であり、以前のマークシート形式による実施と比較すると低い回収率であるため、回収率向上の取組が必要である。

なお、独自の調査票を利用して行った医学部医学科は前期 20%、後期 17%（昨年度前期 23%、後期 22%）であり依然低い水準である。本調査は教員の授業改善及び教育の質の保証の推進を目的とした重要な調査であることから、抜本的な改善を行い他学部並みの高い回収率が得られるよう実施願いたい。

(2) 授業の到達目標について

授業の到達目標及び成績評価方法の学生の認知度については、全ての学部等において設問としている。平均値は、前期、後期いずれも概ね 4.0 ポイント以上となっており、ほとんどの授業において授業目的が明確にされていることがうかがえる。

また、人文社会科学部等では「授業の到達目標をクリアできた」についても設問としており、いずれも 3.7 ポイント以上の結果となっていることから、授業が適切に行われていることが担保されていると判断できる。

(3) 学生の理解度を踏まえた授業の進行について

学生の理解度を確認しながら授業が進められていたかどうかについては、全ての学部等において設問としている。平均値は、前期、後期いずれも 3.7 ポイント以上となっており、ほとんどの授業が適切に実施されていると判断される。

(4) シラバスの内容に沿った授業の実施について

人文社会科学部等では、授業がシラバスの内容に沿って行われていたかを設問としている。平均値は、前期、後期いずれも 4.1 ポイント以上となっていることから、本学の授業が授業計画に沿って適切・着実に実施され、教育の質が高い水準で担保されていると判断される。

(5) 授業の満足度について

授業の満足度については、全ての学部等において設問としている。平均値は、前期、後期いずれも概ね 4.0 ポイント以上となっている。このことから、授業が適切に行われており、本学の教育の質が高い水準で維持されていると判断される。

(6) 全体の平均値について

全ての設問に対する平均値については、全ての学部等において前期、後期いずれも 4.0 ポイント以上となっている。このことから、本学の教育の質が十分に担保されていると判断される。

(7) 最終的な評価

授業の満足度をみると、評価が 3.5 以上の授業を平均的な水準にあるものと設定した場合、平均に満たない各学部の科目数は 2,088 科目中 132 科目、全体に占める割合は 6%であり、授業のほとんどが満足であると回答されていることから、本学の教育の水準は担保されているものと判断できる。

また、全項目の平均値をみると、平均に満たない各学部等の科目数は 65 科目、全体に占める割合は 3%である。よって、ほとんどの授業が平均的な水準を超えていると考えられることから、本学の教育の質が十分に担保されているものと判断される。

令和5年度 授業評価アンケート集計結果

前期

項目	② 授業外の勉強内容について、具体的な指示指導があった	③ 到達目標、成績評価方法及び採点基準を知っている	④ 授業の到達目標をクリアできた	⑤ 理解度を確認しながら授業が進められていた	⑥ 配布資料、スライド等の活用など、学生の理解を引き出す工夫がされていた	⑦ 先生の説明は、聞き取りやすかった（声の大きさ、話の速さ、言葉づかい）	⑧ 板書は、読み取りやすかった（黒板の使い方、字の読みやすさ、字数、書くはやさ、消すはやさ）	⑨ シラバスの内容に沿って授業が行われていた	⑩ 開始・終了時間は守られていた	⑪ 教室内の学習設備に問題はなかった（視聴覚機器、器具、機材等の設置、衛生管理、安全への配慮）	⑫ 全体的に授業に満足できた	平均値
												4.08
人文社会科学部	3.74	4.17	3.79	3.89	4.13	4.09	3.98	4.22	4.38	4.34	4.10	4.08
教育学部	3.97	4.23	3.98	4.13	4.24	4.29	4.17	4.32	4.45	4.43	4.26	4.22
医学部保健学科	3.80	4.05	3.85	3.99	4.16	4.16	4.01	4.28	4.31	4.23	4.16	4.09
医学部心理支援科学科												
理工学部	3.76	4.08	3.78	3.76	3.97	4.00	3.90	4.25	4.36	4.27	3.99	4.01
農学生命科学部	3.74	4.09	3.76	3.79	4.05	4.00	3.95	4.19	4.30	4.22	3.99	4.01
教養教育	3.77	4.09	3.89	3.95	4.14	4.17	4.03	4.24	4.41	4.36	4.13	4.11
項目	① 授業における到達目標は明確だったか	② 授業内容は理解できたか	③ 授業の配布資料は分かりやすかったか（資料は見やすかったかなど）	④ 授業のスピード（板書）は見やすかったか	⑤ 授業は、聞き取りやすかったか（声の大きさ、速さなど）	⑥ 授業のスピード（板書）は見やすかったか	⑦ 授業の配布資料は分かりやすかったか	⑧ 授業を担当した教員について、あなたの期待に対する満足度は概ねどの程度か	平均値			
医学部医学科	4.20	4.14	③3.94 ⑦3.99	③4.12 ④4.16	4.23	4.16	4.10	4.12				

注1： 人社、教育、保健、心理、理工、農生、教養の回答選択肢

「5. 強くそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない」

注2： 数値は、授業科目ごとの受講者数を考慮した加重平均値

注3： 医学部医学科は、講義科目のみの集計結果

令和5年度 授業評価アンケート集計結果

後期

項目	② 授業外の勉強内容について、具体的な指示指導があった	③ 到達目標、成績評価方法及び採点基準を知っている	④ 授業の到達目標をクリアできた	⑤ 理解度を確認しながら授業が進められていた	⑥ 配布資料、スライド等の活用など、学生の理解を引き出す工夫がされていた	⑦ 先生の説明は、聞き取りやすかった（声の大きさ、話の速さ、言葉づかい）	⑧ 板書は、読み取りやすかった（黒板の使い方、字の読みやすさ、字数、書くはやさ、消すはやさ）	⑨ シラバスの内容に沿って授業が行われていた	⑩ 開始・終了時間は守られていた	⑪ 教室内の学習設備に問題はなかった（視聴覚機器、器具、機材等の設置、衛生管理、安全への配慮）	⑫ 全体的に授業に満足できた	平均値
教育課程												
人文社会科学部	3.92	4.22	3.94	4.02	4.22	4.22	4.11	4.31	4.41	4.42	4.21	4.18
教育学部	3.97	4.24	4.03	4.14	4.27	4.30	4.20	4.33	4.41	4.41	4.29	4.24
医学部保健学科	3.87	4.11	3.90	4.00	4.11	4.10	4.01	4.26	4.30	4.29	4.12	4.10
医学部心理支援科学科												
理工学部	3.89	4.14	3.83	3.87	4.07	4.06	3.98	4.30	4.37	4.32	4.03	4.08
農学生命科学部	3.84	4.15	3.85	3.93	4.14	4.09	4.02	4.25	4.38	4.29	4.06	4.09
教養教育	3.91	4.15	4.01	4.04	4.21	4.24	4.13	4.31	4.44	4.37	4.16	4.18
項目		① 授業における到達目標は明確だったか	② 授業内容は理解できたか	③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	④ 授業の配布資料は分かりやすかったか（資料は見やすかったなど）	⑤ 授業は、聞き取りやすかったか（声の大きさ、速さなど）	④ 授業のスライド（板書）は見やすかったか				⑧ 授業を担当した教員についての期待に対する満足度は概ねどの程度か	平均値
医学部医学科		4.39	4.22	④4.25 ⑦4.27	③4.15 ④4.27	4.37	4.27				4.26	4.27

注1： 人社、教育、保健、心理、理工、農生、教養の回答選択肢
 「5. 強く思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全く思わない」
 注2： 数値は、授業科目ごとの受講者数を考慮した加重平均値
 注3： 医学部医学科は、講義科目のみの集計結果

前期 「満足度・理解度」

教育課程	区等 全体的に授業に満足できた		
	最低値	最高値	評価が3.50未満の科目数
人文社会科学部	2.30	5.00	152 科目 中 10 科目
教育学部	2.33	5.00	149 科目 中 10 科目
医学部保健学科	2.52	4.75	119 科目 中 8 科目
医学部心理支援科学科			
理工学部	2.86	4.68	170 科目 中 18 科目
農学生命科学部	2.85	5.00	99 科目 中 9 科目
教養教育	2.79	5.00	371 科目 中 23 科目

後期 「満足度・理解度」

教育課程	区等 全体的に授業に満足できた		
	最低値	最高値	評価が3.50未満の科目数
人文社会科学部	3.33	5.00	186 科目 中 3 科目
教育学部	2.60	5.00	157 科目 中 7 科目
医学部保健学科	2.30	5.00	116 科目 中 5 科目
医学部心理支援科学科			
理工学部	2.86	4.75	162 科目 中 11 科目
農学生命科学部	3.28	4.67	88 科目 中 2 科目
教養教育	2.90	5.00	252 科目 中 9 科目

教育課程	区等 授業の内容を理解できたか（理解しやすい工夫など）		
	最低値	最高値	評価が3.50未満の科目数
医学部医学科	2.70	5.00	36 科目 中 5 科目
医学部医学科	授業を担当した教員について、あなたの期待に対する満足度は概ねどの程度か		
	最低値	最高値	評価が3.50未満の科目数
	2.30	5.00	36 科目 中 7 科目

教育課程	区等 授業の内容を理解できたか（理解しやすい工夫など）		
	最低値	最高値	評価が3.50未満の科目数
医学部医学科	2.10	4.70	31 科目 中 2 科目
医学部医学科	授業を担当した教員について、あなたの期待に対する満足度は概ねどの程度か		
	最低値	最高値	評価が3.50未満の科目数
	1.90	4.80	31 科目 中 3 科目

前期 「全項目平均値」

教育課程等	最低値	最高値	評価が3.50未満の科目数
人文社会科学部	2.82	5.00	152 科目 中 4 科目
教育学部	2.77	5.00	149 科目 中 5 科目
医学部医学科	2.70	5.00	36 科目 中 7 科目
医学部保健学科	2.82	4.73	119 科目 中 8 科目
医学部心理支援科学科			
理工学部	3.28	4.67	170 科目 中 10 科目
農学生命科学部	3.16	5.00	99 科目 中 4 科目
教養教育	2.98	5.00	371 科目 中 8 科目

後期 「全項目平均値」

教育課程等	最低値	最高値	評価が3.50未満の科目数
人文社会科学部	3.00	5.00	186 科目 中 1 科目
教育学部	3.00	5.00	157 科目 中 5 科目
医学部医学科	2.09	4.63	31 科目 中 4 科目
医学部保健学科	2.62	4.73	116 科目 中 2 科目
医学部心理支援科学科			
理工学部	3.12	4.58	162 科目 中 5 科目
農学生命科学部	3.54	4.61	88 科目 中 0 科目
教養教育	3.17	5.00	252 科目 中 2 科目

7-2 卒業生・企業等アンケート（令和6年度）

1 調査対象

本調査は、卒後・修了3年後となる令和2（2020）年度卒業生等及び当該卒業生等（一時的な仕事に就いた者、医学部卒業生、教員は除く。）が就職している企業等を対象とした。

なお、従来は2人以上の就職企業等のみを対象としていたが、前回の調査から全ての就職企業等を対象とした。

2 実施方法

教育委員会で承認された「卒業生等・企業等アンケート調査」実施要項に基づき、以下のとおり実施している。

(1) アンケートの実施時期

7月に、卒業生へアンケート依頼はがき及びメール（アンケート回答フォームのQRコード、URLを記載）、企業へアンケート依頼封書（アンケート回答フォームのQRコード、URLを記載）を郵送し、回答はWeb上で行うシステムとして実施。

(2) アンケート項目

卒業生アンケートは、14の選択式設問と1の自由記述で構成。質問内容は、「基本事項」3項目、「在学中の教育や学生支援」4項目、「学生生活で感じたこと、身についたと思うこと」4項目、「在学生のため、今後の教育や学生支援に必要と思われること」4項目となっている。

企業等アンケートは、基礎項目と調査項目の構成で、全部で7つの設問。3つの調査項目はすべて選択式となっている。

(3) アンケートの集計結果については、教育委員会において報告後、各対象部局である全ての学部・研究科等において分析・検証されている。

3 回収率

卒業生アンケート 20.85%（298件/1,429人）、企業等アンケート 31.85%（214件/672件）と、いずれも回収率が低いため、総体的な検証・判断が難しくなっているが、卒業生アンケートについては昨年度 12.91%から約 7.9ポイント増加した。これは、はがきに加えてメールでも依頼したことで増加したものと考えられる。

企業等アンケートについては、昨年度の 20.72%から約 11.1ポイント増となった。これは、企業等あての郵送物を、はがきから、封書に入れた鑑付きの文書としたことで、企業側のアンケートに対する回答意識を高めることができたものと考えられる。

今後も引き続き、回収率を向上させるための効果的な手法を検討していくことが必要である。

なお、卒業生アンケートの内訳は以下のとおりであった。

- ・学部 239人（人文 52、教育 30、医学 6、保健 44、理工 65、農生 42）
- ・研究科 59人（人社 2、教育 11、医学 3、保健 3、理工 24、農生 13、地社 3）

4 集計結果

(1) 卒業生アンケート

ア 就職・進学先等が入学時に希望していた進路と一致するかの設問では、「希望どおり」96人（32%）、「大体希望どおり」108人（36%）であり、「希望どおりではないが満足している」68人（23%）を含めると91%が満足としていた。回収率が低いため総合的に判断することはできないが、昨年度比で約2ポイント増となっており、本学の入学者受け入れの方針と卒業認定・学位授与の方針との連続性・整合性が担保されていることの見込みとなっている。

問3 就職・進学先は、入学時に希望していた進路と一致しますか。

所属	希望どおり	大体希望どおり	希望どおりではないが満足している	希望どおりではなく満足していない	希望する進路がなかった
人文社会科学部	13	12	16	3	4
人文学部	1	1	1		1
教育学部	18	7	4	1	
医学部医学科	2	2	1		1
医学部保健学科	21	20	2	1	
理工学部	15	26	17	1	6
農学生命科学部	6	19	13	3	1
人文社会学研究科		2			
教育学研究科	8	2	1		
医学研究科	1		1		1
保健学研究科	3				
理工学研究科	3	13	6		2
農学生命科学研究科	3	3	6		1
地域社会研究科	2	1			
総計	96	108	68	9	17
比率	32.2%	36.2%	22.8%	3.0%	5.7%

イ 在学中の教育内容の満足度に関する設問では、「満足」100人（34%）、「どちらかといえば満足」141人（47%）と全体で81%であった。昨年度比で約3ポイント増となっており、本学の教育が概ね適正であることの見込みとなっている。

問4 教育内容に、全体として満足でしたか。

所属	満足だった	どちらかといえば満足だった	一概に言えない	どちらかといえば不満足だった	不満足だった
人文社会科学部	24	15	6	3	
人文学部		3	1		
教育学部	15	15			
医学部医学科	1	1	1	1	2

医学部保健学科	14	22	6	2	
理工学部	14	35	14	2	
農学生命科学部	9	26	5	2	
人文社会学研究科	1				1
教育学研究科	8	2		1	
医学研究科	2	1			
保健学研究科	2		1		
理工学研究科	5	12	6	1	
農学生命科学研究科	3	8	2		
地域社会研究科	2	1			
総計	100	141	42	12	3
比率	33.6%	47.3%	14.1%	4.0%	1.0%

ウ 各学部・研究科等においても回収率を考慮して分析・検証を行っている。

上述のように、各教育課程の教育内容については高い評価が得られていることを確認できたが、教養教育開発実践センターでは、国際共通語としての英語能力及び国際性に係る能力が身についたとする回答が32%程度と低いことから、さらなる改善が必要であるとしている。また、医学部医学科では、学習や研究に関わる施設、設備、備品について約半数が満足しているものの、やや低い傾向にあるものと判断しており、引き続き充実させる取り組みを検討・実施していくことが求められていることを掲げている。

(2) 企業等アンケート

ア 採用にあたってどのような点を重視したかという設問については、「課題探求・問題解決に係る基礎的な力」84%、「社会人としての基礎的な力」88%となっており、前年度に実施した調査と同様の内容が注目されていることが確認された。このことから、本学の卒業生に対しては、汎用性のある基礎力が高く期待されていることがうかがわれる。

イ 本学が掲げる卒業認定・学位授与の方針に係る知識や資質が、本学卒業生に身につけていると思われるかを問う設問については、「身に付いている」「どちらかといえば身に付いている」とした回答が設問に掲げた4つの力についてそれぞれ65%～81%となっている。このことから、本学の卒業認定・学位授与の方針が適正であることが概ね担保されているものと判断される。

ウ 自由記述では、前回行った調査と同様、本学卒業生の活躍ぶりをつたえるものや、採用活動に対する謝辞がほとんどであった。多くの企業が、今後も本学の卒業生に対して高く期待する意見を述べており、このことから、就職支援活動を通じた企業等との関係性が引き続き良好であることがうかがわれる。

7-3 各部局等におけるアンケートの実施状況（令和5年度）

1 調査対象

令和5年度に実施した以下のアンケート調査結果及び検証結果等

- ・新入生に対する志望動機・時期等の入学時調査
- ・在学生に対する生活状況、就学状況、進路希望等を把握するための学生調査
- ・在学生に対する授業評価のアンケート
- ・卒業生に対する在学時における大学の満足度等を把握するための卒業時調査
- ・卒後3年後の卒業生に対する学生生活への満足度や学修成果に関する調査
- ・卒後3年後の本学卒業者を雇用している企業等に対する本学卒業生への評価等に関する調査

2 アンケート実施部局等

- (1) 教養教育開発実践センター：授業評価アンケート、教養教育に関する学生アンケート
- (2) 人文社会科学部・人文社会科学研究科：授業評価アンケート、研究生活アンケート、修了生アンケート、
- (3) 教育学部・教育学研究科：授業評価アンケート
- (4) 医学部医学科・医学研究科：授業評価アンケート、卒業生アンケート、修了生アンケート
- (5) 医学部保健学科/心理支援科学科・保健学研究科：授業評価アンケート、入学時アンケート、卒業生アンケート、修了生アンケート
- (6) 理工学部・理工学研究科：授業評価アンケート、卒業生アンケート、修了生アンケート
- (7) 農学生命科学部・農学生命科学研究科：授業評価アンケート、新入生アンケート
- (8) 地域共創科学研究科：授業評価アンケート、修了生アンケート
- (9) 地域社会研究科：授業評価アンケート、修了生アンケート

3 アンケートの実施結果

各部局が実施したアンケートの内容等及び調査結果の検証については、以下のとおりである。

- (1) 教養教育開発実践センターでは、全学部の1年生に対し、教養教育に関する学生アンケートを前期及び後期に実施している。前期では、入学時のガイダンスの説明や履修相談、後期では基礎ゼミナールの内容等を設問とし、当該事項について検証を行っている。回答率は、前期76.0%(1,038人/1,366人)、後期45.5%(626人/1,375人)で、前期は昨年度(70.7%)から増加しており、後期は昨年度(58.2%)と同程度であった。
- (2) 人文社会科学研究科では、前期及び後期に研究生活アンケートを行い、問題となる回答について研究科運営会議で検証している。また、前期及び後期に授業評価アンケート、9～10月及び2～3月に修了生アンケートを実施している。

- (3) 教育学部では、前期及び後期に授業評価アンケートを行い、評価が3.0未満(5.0満点)の授業について検証を行っている。
- (4) 医学部医学科では、前期及び後期に独自に授業評価アンケートを行っているほか、卒業時に卒業生アンケート(回収率100%(147人/147人))を実施し、学務委員会において検証している。
- (5) 医学部保健学科及び心理支援科学科では、各専攻において入学時アンケートを実施し、志願した理由等について検証している。また、卒業生アンケートを実施し、教育内容の満足度、各種支援等について質問を行い、検証している。
- (6) 理工学部では、卒業時に卒業生アンケートを実施し、教育内容やカリキュラムの満足度、就職活動支援及び進路等について検証を行っている。
- (7) 農学生命科学部では、入学時に新入生アンケートを実施し、入試関連等について検証を行っている。
- (8) 地域共創科学研究科では、前期及び後期に授業評価等アンケート(回収率:前期18.8%(13件/69件)、後期38.8%(26件/67件))を実施し、各授業内容や研究指導について検証を行っている。また、修了時には修了生アンケートを実施し、指導体制や学習目標の達成度等について検証を行っている。
- (9) 地域社会研究科では、9月(回収率100%(1件/1件))及び3月(回収率75%(3件/4件))に修了生アンケートを実施し、教育内容、教育カリキュラム及び指導方法等について検証を行っている。

Ⅲ 参考資料

弘前大学アセスメント・ポリシー（学部）

（令和4年10月14日学長裁定第77号）

弘前大学は、各学部が卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定める学位取得の要件に基づき、教育目標の到達度、学生の満足度などの学修成果に関してアセスメント（測定・評価）を実施し、教育課程の有効性について検証を行い、本学の教育改革、教育方法の改善及び学修支援等に活用します。

1 実施単位

アセスメントの単位は、機関レベル（大学全体）、教育課程レベル（各学部）、科目レベル（各授業）とする。

2 実施体制

アセスメントは、機関レベルでは教育推進機構、教育課程レベル及び科目レベルでは各学部等において、それぞれ実施する。

3 実施方法

(1) アセスメントは、以下について、アセスメント・チェックリストにより実施する。

- ・入学、進学、留年、退学等及び卒業・進路の状況
- ・教育活動、研究活動及び社会との連携等の状況
- ・カリキュラムチェック
- ・授業の開講、成績評価の状況
- ・学生支援の状況
- ・学修環境の整備状況
- ・アンケート調査（入学時（志望動機等）、在学時（授業評価、生活状況、進路希望等）、卒業時（大学の満足度等）、卒後3年経過時（DPの有効性、就職先企業等に対する卒業生の評価等））
- ・その他（アセスメントに有効な取組等）

(2) アセスメントの結果は、教育推進機構会議等に報告し、本学の教育方法の改善等に活用する。

・アセスメント・チェックリスト (学部)

単位	調査・指標	時期	調査対象	調査内容	調査方法	実施機関	調査結果の活用方法
機関レベル	新入生アンケート	3月	入学予定者	志望理由等	Webアンケート	機構	入試改善
	VELC TEST	4月・7月・2月	1年次生	英語能力の把握	外部試験	機構	教育プログラム改善
	在籍等の状況	7月	各学部	入学、進学、留年、退学等及び卒業・進路の状況	組織評価の結果を利用	機構	DP検証、教育支援等
	教育・研究活動等	7月	各学部	教育・研究活動及び社会との連携等の状況	組織評価の結果を利用	機構	DP検証、教育支援等
	カリキュラムチェック	3月	各授業	DPとの整合	シラバス等の確認	機構 (教養科目)	教育プログラム検証
	授業評価アンケート	7月・2月	各授業	授業方法等	学務情報システム	機構	授業方法等検証
	卒業時アンケート	3月	4年次生	カリキュラムの有効性 就業等の状況	学務情報システム	機構	教育プログラム検証 キャリア支援検証
	卒業3年後アンケート	6月	卒業3年後卒業生	DPの検証等	回答Webサイトを郵送	機構	DP検証
	就職先企業等アンケート	6月	卒業3年後卒業生	卒業生の評価 大学教育への要望等	回答Webサイトを利用	機構	DP検証
	その他のアンケート	随時	各学部	実施結果による	実施結果を利用	機構	教育支援
	在籍等の状況	7月	各学部	入学、進学、留年、退学等及び卒業・進路の状況	学部独自	学部	DP検証、教育支援
	カリキュラムチェック	3月	各授業	DPとの整合	シラバスの確認	学部	教育プログラム検証
	授業評価アンケート	随時	各授業	授業方法等	学部独自	独自に調査を実施する学部	授業方法等検証
	教育課程レベル	授業の開講・成績評価	随時	各授業	開講科目数・GPA等	統一調査フォーム	学部
資格・免許等		随時	在学生	TOEIC等の成績 各資格・免許の取得状況	適宜	学部	教育プログラム検証
卒業時アンケート		3月	4年次生	カリキュラムの有効性 就業等の状況	適宜	独自に調査を実施する学部	教育プログラム検証 キャリア支援検証
卒業3年後アンケート		6月	卒業3年後卒業生	DPの検証等	機構調査結果を利用	学部	DP検証
就職先企業等アンケート		6月	卒業3年後卒業生	卒業生の評価 大学教育への要望等	機構調査結果を利用	学部	DP検証
履修状況等		随時	各授業	履修者数・出欠	適宜	学部	教育プログラム検証
カリキュラムチェック		3月	各授業	ルーブリック・科目ナンバリング	シラバスの確認	学部	教育プログラム検証
授業評価アンケート		随時	各授業	授業方法等	学部独自	独自に調査を実施する学部	授業方法等検証
成績評価		随時	各授業	成績分布	統一調査フォーム	学部	授業方法等検証
資格・免許等		随時	在学生	TOEIC点数 各資格・免許の取得状況	適宜	学部	教育プログラム検証

弘前大学アセスメント・ポリシー（研究科）

（令和4年10月14日学長裁定第78号）

弘前大学は、各研究科が卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定める学位取得の要件に基づき、教育目標の到達度、学生の満足度などの学修成果に関してアセスメント（測定・評価）を実施し、教育課程の有効性について検証を行い、本学の教育改革、教育方法の改善及び学修支援等に活用します。

1 実施単位

アセスメントの単位は、機関レベル（大学全体）、教育課程レベル（各研究科）、科目レベル（各授業）とする。

2 実施体制

アセスメントは、機関レベルでは教育推進機構、教育課程レベル及び科目レベルでは各研究科等において、それぞれ実施する。

3 実施方法

(1) アセスメントは、以下について、アセスメント・チェックリストにより実施する。

- ・進学、留年、退学等及び修了・進路の状況
- ・教育活動、研究活動及び社会との連携等の状況
- ・カリキュラムチェック
- ・授業の開講、成績評価の状況
- ・学生支援の状況
- ・研究環境の整備状況
- ・アンケート調査（在学時（授業評価、生活状況、進路希望等）、修了時（大学（研究指導）の満足度等）、修了後3年経過時（DPの有効性、就職先企業等に対する修了生の評価等））
- ・その他（アセスメントに有効な取組等）

(2) アセスメントの結果は、教育推進機構会議等に報告し、本学の教育方法の改善等に活用する。

・アセスメント・チェックリスト (研究科)

単位	調査・指標	時期	調査対象	調査内容	調査方法	実施機関	調査結果の活用方法
機関レベル	在籍等の状況	7月	各研究科	入学、進学、留年、退学等及び修了・進路の状況	組織評価の結果を利用	機構 (入試課)	DP検証、教育支援
	教育・研究活動等	7月	各研究科	教育・研究活動及び社会との連携等の状況	組織評価の結果を利用	機構	DP検証、教育支援等
	カリキュラムチェック	3月	各授業	DPとの整合	シラバス等の確認	機構	教育プログラム検証
	授業評価アンケート	7月・2月	各授業	授業方法等	学務情報システム	機構	授業方法等検証
	修了時アンケート	3月	修了生	カリキュラムの有効性 就業等の状況	学務情報システム	機構	教育プログラム検証 キャリア支援検証
	修了3年後アンケート	6月	修了3年後修了生	DPの検証等	回答Webサイトを郵送	機構	DP検証
	就職先企業等アンケート	6月	修了3年後修了生	修了生の評価 大学院進学への要望等	回答Webサイトを郵送	機構	DP検証
	その他のアンケート	随時	各研究科	実施部局による	実施結果を利用	機構	教育支援
	在籍等の状況	7月	各研究科	収容率、留年、退学等及び修了・進路の状況	研究科独自	研究科	DP検証、教育支援
	カリキュラムチェック	3月	各授業	DPとの整合	シラバスの確認	研究科	教育プログラム検証
教育課程レベル	授業評価アンケート	随時	各授業	授業方法等	研究科独自	独自に調査を実施する研究科	授業方法等検証
	授業の講義・成績評価	随時	各授業	開講科目数等	統一調査フォーム	研究科	授業方法等検証
	資格・免許等	随時	在学生	TOEIC等の成績 各資格・免許の取得状況	適宜	研究科	教育プログラム検証
	修了時アンケート	3月	修了予定学生	カリキュラムの有効性 就業等の状況	適宜	独自に調査を実施する研究科	教育プログラム検証
	修了3年後アンケート	6月	修了3年後修了生	DPの検証等	機構調査結果を利用	研究科	DP検証
	就職先企業等アンケート	6月	修了3年後修了生	修了生の評価 大学院進学への要望等	機構調査結果を利用	研究科	DP検証
	研究指導	随時	各授業	研究計画	適宜	研究科	教育プログラム検証
	カリキュラムチェック	3月	各授業	ルーブリック・科目ナンバリング	シラバスの確認	研究科	教育プログラム検証
	授業評価アンケート	随時	各授業	授業方法等	研究科独自	独自に調査を実施する研究科	授業方法等検証
	成績評価	随時	各授業	成績分布	統一調査フォーム	研究科	授業方法等検証

アセスメント・ポリシーの運用に関する要項

(令和4年10月14日 学長裁定第79号)

第1 趣旨

この要項は、弘前大学アセスメント・ポリシー（学部）及び弘前大学アセスメント・ポリシー（研究科）の運用に関して、必要な事項を定める。

第2 実施方法等

- 1 アセスメントに係る調査（以下「調査」という。）は、各学部、各研究科及び教育推進機構教養教育開発実践センター（以下「学部等」という。）を対象とする。
- 2 以下に掲げる項目については、教育推進機構長（以下「機構長」という。）から学部等に対して依頼する調査により行う。
 - (1) カリキュラムチェック
 - (2) 授業の開講，成績評価の状況
 - (3) 学生支援の状況
 - (4) 学修環境等の整備状況
 - (5) その他アセスメントに有効な取組等
- 3 機構長は、学部等から報告された調査結果について、全学的見地から検証し、評価結果を取りまとめ、学長に報告する。
- 4 学長は、前項の報告により改善すべき事項があった場合は、教育推進機構において改善計画を取りまとめさせ、該当する学部等に改善計画に基づいた措置を講ずることを命ずる。
- 5 前項の該当する学部等は、講じた措置の結果について、学長に報告する。

第3 その他

その他調査に関し必要な事項については、別に定める。

附 則

この要項は、令和4年10月14日から実施する。